

飛込競技規則 競技役員（飛込）の手引き

2026-4-1

第1編 (公財) 日本水泳連盟飛込競技規則

目 次

総 則	1
第1条 一般規則	1
第2条 競技会	3
第3条 競技形式	5
第4条 競技手続	7
第5条 競技会手順	8
第6条 レフリー（審判長）および アシスタントレフリー（副審判長）の任務	10
第7条 記録本部の任務	14
第8条 採点方法	16
第9条 シンクロナイズドダイビング競技、 審判基準並びに採点方法	23
第10条 減点要約	25
第11条 世界選手権およびオリンピック大会について	29
第12条 エージ・グループ競技規則	29
第13条 抗議	35
第14条 その他	35
付録-1 難易度構成表（飛板）	37
付録-2 難易度表（飛板）	39
付録-3 難易度構成表（高飛）	43
付録-4 難易度表（高飛）	45
参考図	49

第2編（公財）日本水泳連盟 競技役員（飛込）の手引き

目 次

はじめに	57
1. 飛込競技概要	57
2. 公式競技会・公認競技会	59
3. 競技会の名称制限	61
4. 競技者の出場制限	61
5. 競技会参加にかかわる罰則	62
6. 競技会の報告義務	63
7. 競技役員の役割と心得	63
8. 競技役員の構成と配置	66
9. 競技会運営委員会（実行委員会）	68
10. 大会総務	71
11. 競技役員の仕事と権限	71
(1) 競技役員長	71
(2) レフリー	71
(3) ジャッジ	74
(4) 競技進行主任	76
(5) 記録員	77
(6) 通告員	85
(7) 招集員	94
(8) 報道担当	95
12. 抗議	97
13. 施設・用具	97
14. 競技会参加の監督、コーチ、競技者に対し、特に要望または指導する事柄	98
15. 書式	100

(1)	ダイブシート	101
(2)	棄権届出用紙	105
(3)	難易度計算用紙	106
16.	参考資料	108
(1)	公認競技役員資格規定	109
(2)	飛込競技公認審判員資格規定	111
(3)	飛込競技公認審判員資格施行細則	117

飛込競技規則

(公財) 日本水泳連盟 飛込競技規則

総 則

本規則は、世界水泳連盟競技会規定 (WORLD AQUATICS COMPETITION REGULATION) のPART FOUR : DIVING RULES に則り制定した。(公財) 日本水泳連盟 (JAQUA : Japan Aquatics 以下…「本連盟」という) が主催する競技会(公式競技会)と本連盟により公認された競技会(公認競技会)を対象として適用される。また、本連盟の加盟団体(以下加盟団体という)が主催する競技会(公式競技会)と加盟団体により公認された競技会(公認競技会)もこの規則を準用しなければならないが、各競技会において異なる場合は別途競技会要項に明記する。

以降、World AquaticsをAQUA と表記する。

第1条 一般規則

- 1.1 本規則は、国内におけるすべての公式、公認飛込競技会に適用される。
- 1.2 飛板、固定台を含めたすべての飛込設備は、本連盟の飛込施設規則に適合したものでなければならず、競技会以前に本連盟の代表者もしくは飛込委員会により承認されたものでなければならない。
- 1.3 競技会会場の飛込競技施設は、競技会の少なくとも2日以前から競技会参加者が使用できるようにする。
- 1.4 競技会開催年の12月31日時点で14歳未満の選手は、オリンピック大会・世界選手権大会・ワールドカップ大会に出場することはできない。
- 1.5 演技種目番号
 - 1.5.1 すべての演技種目は、3桁もしくは4桁の数字とアルファベット1文字を用いて表示される。(1.5.1)
 - 1.5.2 1桁目の数字は演技種目の属する群 (group) を示す。(D1.5.2)

1 = 前飛込	2 = 後飛込	3 = 前逆飛込
4 = 後踏切前飛込	5 = ひねり飛込	6 = 逆立ち飛込

- 1.5.3 前飛込・後飛込・前逆飛込・後踏切前飛込の群において、2桁目の数字が1である時には途中宙返りが行われる事を示す。途中宙返りが無い場合、2桁目の数字は0となる。(1.5.3)
- 1.5.4 3桁目の数字は、演技の半(1/2)回ごとの宙返りの回数を示す。
1=半回宙返り、9=4回半宙返り等
5回以上の宙返りでは4桁の数字を使い、3・4番目の数字が回転数を示す。
例えば1011は前宙返り5回半である。(1.5.4)
- 1.5.5 逆立ち飛込の群において、2桁目の数字は、演技の属する群または方向を示す。(1.5.5)
1=前飛込 2=後飛込 3=前逆飛込 4=後踏切前飛込
- 1.5.6 ひねり飛込(番号が5で始まる演技種目)の2桁目の数字は、規則1.5.2に示された群または踏切の方向を示す。(1.5.6)
- 1.5.7 ひねり飛込・逆立ち飛込の4桁目は、半(1/2)回ごとのひねりの回数を示す。(1.5.7)
- 1.5.8 数字の後のアルファベットは演技の行われる型を示す。(1.5.8)
A=伸型 B=蝦型 C=抱型 D=自由型
- 1.5.9 自由型とは、他の型の任意の組み合わせを意味し、一部のひねり飛込では使用が制限される。(1.5.9)
- 1.6 難易度
- 1.6.1 各演技種目の難易度は、巻末の索引-1および3の難易度構成表に記載された要素に基づき、以下の公式によって計算される。(1.6.1)
難易度=A(宙返り)+B(空中姿勢)+C(ひねり)+D(踏切)+E(入水)
- 1.6.2 参考の為、計算済の難易度と演技種目番号を添えた難易度構成表を飛板飛込は付録-2に、高飛込は付録-4に示す。(1.6.2)
- 1.6.3 表記されていない演技種目が競技会に申込みれた場合、

レフリーが規則 1.5・1.6に基づいて演技種目の番号と難易度をつける。(1.6.3)

- 1.6.4 ひねり演技において難易度計算に使用する型は以下の通りとする。(1.6.4)
- ・半回の宙返りではA・B・Cを適用する。
 - ・一回ならびに一回半の宙返りではDを適用する。
 - ・二回以上の宙返りではB・Cを適用する。
 - ・逆立ちの一回、一回半ならびに二回の宙返りにおいて、一回以上のひねりを伴う場合にはDを適用する。
 - ・ひねりを伴う逆立ちの2回半以上の宙返りにおいてはB・Cを適用する。

第2条 競技会

2.1 競技会一般規則

- 2.1.1 予選競技における競技順は抽選により決定される。抽選は公開で行わなければならない。抽選の日時および、場所は競技会要項に明記する。電子機器を用いた抽選が可能な場合には、これを使用する。
- 2.1.2 世界水泳選手権大会において、予選に35名以上がエントリーした場合、予選を2回に分けて行うことがある。
- 2.1.3 準決勝競技における競技順は予選終了時の得点合計による順位の逆の順序で競技を行う。同得点の場合の競技順は該当する選手の抽選によって決定する。(競技会要項に定める) (2.1.3)
- 2.1.4 トーナメントシステムを採用する場合を除き、決勝競技における競技順は予選準決勝終了時の得点合計による順位の逆の順序で競技を行う。同得点の場合の競技順は該当する選手の抽選によって決定する。(2.1.4)
- 2.1.5 トーナメントシステムが採用される場合、予選以外の全てのセッションにおける競技順は予選終了時の得点合計による順位の逆の順序で競技を行う。同得点の場

合の競技順は該当する選手の抽選によって決定する。
最下位が同点だった場合、両競技者は同じ準決勝に振り分けられる。(2.1.5)

2.1.6 一つの競技種目において、実行される演技の総数は210未満とする。審判団が2パネル方式を採用しない場合、競技を前半と後半、もしくはそれ以上に分けて行う。(2.1.6)

2.1.7 不測の事態により準決勝または決勝に出場できない競技者がした場合、予選または準決勝において次の順位を獲得した競技者が繰り上げられ、定められた準決勝または決勝進出者数が確保される。(2.1.7) (競技会要項に定める)

2.1.8 得点合計が同じ場合には同順位とする。(2.1.8)

2.1.9 順位は次の要領で決定する。

2.1.8.1 決勝進出者については決勝における得点合計により決定する。(2.1.9 個人) (2.1.10 シンクロ)

2.1.8.2 準決勝進出者については準決勝における得点により決定する。

2.1.8.3 その他については予選における得点により決定する

2.2 1 m飛板飛込

2.2.1 予選・決勝を行う場合がある。(競技会要項に定める)

2.3 3 m飛板飛込、高飛込

2.3.1 予選・準決勝・決勝(以下準決勝方式という)もしくは予選・決勝(以下予選決勝方式という)を行う場合がある。(競技会要項に定める)

2.3.1.1 3 m飛板飛込および高飛込競技における準決勝または、決勝は競技会要項に記載のない限り0点から始まる。(2.3.3) (2.4.3)

2.3.2 準決勝方式

2.3.2.1 準決勝方式では、予選における上位12位または18位までの競技者が準決勝に出場する。準決勝における上位8位または12位までの競技者が決勝に出場する。

2.3.2.2 準決勝方式では、決勝に出場する競技者は準決勝の得点合計により決定される。

2.3.3 予選決勝方式

2.3.3.1 予選決勝方式では、予選における上位8位または12位までの競技者が決勝に出場する。

2.4 シンクロナイズドダイビングー3m飛板飛込・10m高飛込

2.4.1 予選、決勝を行う場合がある（競技会要項に定める）

2.5 ミックスチームイベントー3m飛板飛込・高飛込 混合 (2.5)

2.5.1 決勝競技のみ実施する。（2.5.1）

2.6 ミックスシンクロナイズドダイビング3m飛板飛込・高飛込。 (2.6)

2.6.1 決勝競技のみ実施する。（2.6）

第3条 競技形式

3.1 全ての男子競技種目は6演技で構成される。（3.1）

3.2 全ての女子競技種目は5演技で構成される。（3.2）

3.3 同じ演技番号を繰り返してはならない。（3.3）

3.4 1m・3m飛板飛込 —男子および女子—

3.4.1 女子1m・3m飛板飛込の競技は異なる5つの群より選択された、異なる5つの自由選択飛で構成される。
(3.4.1)

3.4.2 男子1m・3m飛板飛込の競技は異なる5つの群より選択された、異なる6つの自由選択飛で構成される。
(3.4.2)

3.5 高飛込 —男子および女子—

3.5.1 女子高飛込の競技は異なる5つの群より選択された、異なる5つの自由選択飛で構成される。（3.5.1）

3.5.2 男子高飛込の競技は異なる6つの群より選択された、異なる6つの自由選択飛で構成される。（3.5.2）

3.5.3 日本選手権および国際大会代表選手選考会における飛込台の高さは10mに限定する（競技会要項に定める）

3.6 シンクロナイズドダイビング競技

3.6.1 シンクロナイズドダイビング競技は、飛板あるいは固定台から2名1組の競技者が同時に演技するものである。この競技はいかに両競技者の演技の演技が優れて

いるか、また、個々の競技者の同調性が取れているかを判定する。(3.6.1)

3.6.2 女子シンクロナイズドダイビング競技及びミックスシンクロナイズドダイビング競技は、異なる5つの群から選択された5演技種目で構成される。(3.6.3)

- ・最初の2演技種目は、難易度構成表に関わらず難易度を2.0とみなす。
- ・3演技種目は自由選択飛とする
- ・飛板飛込における前踏切の場合には助走を伴うこと。

3.6.3 男子シンクロナイズドダイビング競技は、異なる6演技種目で構成される。(3.6.4)

- ・最初の2演技種目は、難易度構成表に関わらず難易度を2.0とみなす。
- ・4演技種目は自由選択飛とする。
- ・飛板飛込における前踏切の場合には助走を伴うこと。

3.6.4 両競技者は同一の種目(同じ演技番号および同じ型)を行なわなければならない。(3.6.5)

3.7 ミックスチームイベント

3.7.1 ミックスチームイベントは、少なくとも男子1名・女子1名の競技者で構成され、4名以下とする。(3.7.1)

3.7.2 6つの群から選択した6演技種目で構成される。難易度の制限はない。(3.7.2)

3.7.3 2演技種目は女子選手が、2演技種目は男子選手が行い、2演技は男女1組のミックスシンクロナイズドチームによって行われる。また、3演技種目は3m飛板から、残りの3演技種目は10m固定台から行う。(3.7.3)

3.7.4 チームダイビングでは、以下の順に競技を行う。(3.7.4)

第1ラウンド：女子3m飛板飛込

：男子3m飛板飛込

第2ラウンド：ミックスシンクロナイズド3m飛板飛込

第3ラウンド：女子10m高飛込

：男子10m高飛込

第4ラウンド：ミックスシンクロナイズド10m高飛込

- 3.8 ミックスシンクロナイズドダイビング競技
 - 3.8.1 ミックスシンクロナイズドダイビング競技は、男・女1名ずつの組み合わせで行う。(3.8.2)
 - 3.8.2 3m飛板飛込・高飛込とも、異なる5つの群から選択した5つの自由選択飛で構成される。(3.8.3)
 - 3.8.3 最初の2演技種目は難易度構成表にかかわらず難易度を2.0と見なしたものの、次の3演技種目は自由選択飛で構成される。(3.8.4)

第4条 競技手続

- 4.1 各競技者または当該監督・コーチは、予選及びそれ以降のすべての競技において選択する演技種目の記入を完了した、所定の「ダイブシート」を競技会記録本部に提出しなければならない。(4.1)
- 4.2 各競技者ならびに当該監督・コーチは、「ダイブシート」に署名し、記載事項についてすべての責任を負う。(4.2)
- 4.3 「ダイブシート」は特に競技会要項に定めがない限り、当該競技の予選競技開始24時間前までに競技会記録本部まで提出しなければならない。(4.3)
- 4.4 競技会要項に別に定めた場合、締め切り時刻を過ぎた場合でも予選競技開始3時間前までであれば規定の手数料20,000円を添えて「ダイブシート」を提出することができる。(4.4)
- 4.5 「ダイブシート」が指定された時間までに提出されなければ、競技者はその競技に参加することを許されない。(4.5)
- 4.6 各競技者または当該監督・コーチは、予選または準決勝終了後30分以内であれば、次のセッションである準決勝または決勝の「ダイブシート」を変更することができる(競技会要項に定める)(4.6)
- 4.7 シンクロナイズドダイビング競技において、一方の競技者が不測の事態により出場できない場合、監督者会議終了前であれば、他の競技者への変更を認める。
- 4.8 「ダイブシート」には、次の項目を演技順に記載しなければならない

ならない。(4.9)

- ・演技種目番号
- ・型
- ・飛板または固定台の高さ
- ・難易度

- 4.9 各ラウンドの演技は、すべての競技者によって連続して行われなければならない。(4.10)
- 4.10 規則 4.1に基づいて提出された「ダイブシート」の記載事項は、演技種目表示板や通告より優先される。(4.11)

第5条 競技会手順

5.1 競技会運営一般

- 5.1.1 本連盟主催の公式競技会は、本連盟の公認競技役員により運営される。競技会の責任者はレフリーである。
- 5.1.2 実行しようとする演技種目番号と型は、競技者とジャッジの双方から視認できる掲示板に示される。(5.1.2)
- 5.1.3 本連盟主催の公式競技会においては、本連盟公認の自動記録・掲示装置を使用する。
- 5.1.4 入力装置を使用しない場合、ジャッジは0点から10点まで0.5点きざみで表示できるフラッシュカードを使用する。(5.1.4)

5.2 ジャッジ (judge) パネルの構成

- 5.2.1 日本選手権および国際大会派遣選手選考会における個人競技およびチームダイビング競技では7名のジャッジを配置する。シンクロナイズドダイビング競技では11名(5名は同調性を、3名は1人の選手の演技を、3人はもう1人の選手の演技を採点する)のジャッジを配置する。(5.2.1)
- 5.2.2.1 5.2.1以外の競技会においては、個人競技では5人、シンクロナイズドダイビング競技では9人(シンクロナイゼーションジャッジ5人、エクスキューションジャッジ2人+2人)のジャッジとすることができる。(5.2.2)

- 5.2.2.2 本連盟が事前に承認した場合に限り、個人競技では3人、シンクロナイズドダイビング競技では5人（シンクロナイゼーションジャッジ3人、エクスキューションジャッジ1人+1人）のジャッジとすることができる。
- 5.2.3 適切と判断される場合、同一競技においてジャッジパネルは2パネル方式を採用することができる。その場合、後半パネルは第4ラウンドから始まる。
(注) 高温度や高湿度のような例外的な状況では、パネルはラウンドの終了後に変更されることがある。
(5.2.4)
- 5.2.4. レフリーにより、ジャッジは飛込台の両側に振り分けて配置される。しかし、それが不可能である場合には、片側に配置されても良い。(5.2.5)
- 5.2.4.1 各ジャッジの位置を区別する為に番号が付けられる。番号は飛込台から見て、右側奥を1番とし、順次時計回りに付ける。(13.1.7.1.4)
- 5.2.4.2 ジャッジの席は、1m飛板飛込においては椅子を(13.1.7.1.5)、それ以外の競技種目では座面高2.0m以上の椅子を使用する(13.1.7.1.6)。ジャッジが片側に配置される場合には後方を高くする。その場合は前の椅子より少なくとも0.5mずつ高くすること。シンクロナイズドダイビング競技の場合も同様とする。
(13.1.7.2.7)
- 5.2.5 ジャッジは一度配置についたならば、レフリーの指示のない限り、または特別の事情がない限り、その位置を変更することはできない。(5.2.6)
- 5.2.6 競技開始後、ジャッジが採点の任を続けることができなくなった場合、控えのジャッジに交代する。
(5.2.7)
- 5.2.7 演技が実行された後、レフリーの合図によって各ジャッジは互いに相談することなく、ただちに、かつ同時に、それぞれの主観で自分の採点を提示しなければならない。自動記録・掲示装置を使用する場合、ジャッジは演技の実行直後に採点を入力しなければな

- らない。(5.2.8)
- 5.2.8 得点情報を電子表示板に表示するものとする。その場合、ジャッジからは見えない方が望ましい。一方で、採点は（競技の順位その他に関するいかなる情報もなく）ジャッジ入力端末に表示する。(5.2.9)

第6条 レフリー（審判長）およびアシスタントレフリー（副審判長）の任務

- 6.1 レフリーは、競技を統括し、その任務を確実に遂行することのできる位置にいないといけない。(6.1)
- 6.2 アシスタントレフリーの業務は以下のとおりである。
- ・固定台上で競技者を観察する（プラットフォームジャッジ）
 - ・シンクロナイズドダイビング競技においては、レフリーと反対側に位置し、競技者の演技を観察する(6.2)
- 6.3 競技前のレフリーの任務
- 6.3.1 レフリーは「ダイブシート」を点検し、記載事項が規則に適合していない場合、競技開始前までに該当する競技者に連絡して訂正させなければならない。(6.3.1)
- 6.3.2 訂正が必要と判断した場合、競技者には可能な限り早く伝えなければならない。(6.3.2)
- 6.4 競技中のレフリーの任務
- 6.4.1 レフリーは、不測の事態が発生した場合、必要と判断すれば競技を短時間中断するか、一部を延期、または中止することができる。もし、可能であれば、各ラウンドの終了した後になされるべきである。(6.4.1)
- 6.4.2 中断後の競技は中断したところから再開され、延期前の得点は競技が続行される時に残りの部分に加算される。(6.4.2)
- 注)競技が継続できない場合、結果は上訴審判によって決定される。

- 6.4.3 強風の場合、レフリーは競技者全員に減点することなく、演技を再行する権利を与えることができる。(6.4.3)
- 6.4.4 レフリーあるいは通告員は、各演技の行われる前に競技者の氏名、及び実行しようとする演技種目を通告しなければならない。競技会において異なる固定台を使用する場合は、その高さも通告しなければならない。演技種目に関するあらゆる情報を表示できる掲示板を使用する場合、通告は競技者の氏名だけでも良い。(6.4.4)
- 6.4.5 演技種目が誤って通告された場合、競技者、または当該監督・コーチは、ただちにその訂正を申し出るものとし、レフリーは「ダイブシート」を確認しなければならない。(6.4.5)
- 6.4.6 もし誤って通告された演技が競技者によって実行された場合、レフリーはこれを取り消し、ただちに正しい演技種目を通告し、演技を再行させることができる。1回目の演技に対する採点は抗議に備えて記録しておくこと。(6.4.6)
- 6.4.7 演技はレフリーの合図の後に行わなければならない。レフリーは、演技種目表示板を確認し、競技者が飛板または固定台の上において所定の位置をとるまで合図を与えてはならない。競技者は立飛込の演技種目において、レフリーの合図があるまで飛板または固定台の先端に立ってはならない。(6.4.7)
- 6.4.8 各競技者には、演技の準備と実行のために十分な時間が与えられなければならない。ただし、レフリーが警告を行ってから演技の実行までに1分以上経過した場合、レフリーはその演技に対して0点を与える。(6.4.8)
- 6.4.9 競技者が開始の合図の前に演技を実行した場合、レフリーはその演技を再行させるか、させないかを決定する。(6.4.9)
- 6.4.10 不測の事態が発生した場合、レフリーの判断により減点無しに演技の再行ができる。その際、演技の再行が

承認されても、最初の演技には採点を行い、後で起こり得る抗議が受け入れられた場合にも対処できるように、記録しておくこと。(6.4.10)

- 6.4.11 演技に対する再行の要請は、ただちに競技者、または当該監督・コーチが行わなければならない。(6.4.11)
 - 6.4.12 演技が通告以外の演技種目番号で行われたとレフリーが認めた場合、レフリーはFailed diveであると宣言する。(IV6.4.12)
 - 6.4.13 演技が通告以外の型で行われたことが明らかな場合、レフリーはジャッジが採点を行う前に、通告を繰り返し、採点は最高2点であると宣言する。それにもかかわらずジャッジが2点を超える採点を行った場合、レフリーはこれを2点到訂正させる。(6.4.13)
 - 6.4.14 すべての演技は、他人の助力を受けることなく競技者自身により行われなければならない。ただし、各演技を行う合間に助言を受けることは認められる。(6.4.14)
 - 6.4.15 レフリーは開始の合図後に他人の助力があったと認めた場合、Failed diveであると宣言する。(6.4.15)
 - 6.4.16 競技者が演技の実行を拒んだ場合、レフリーはFailed diveと宣言する。(6.4.16)
 - 6.4.17 競技者が競技を妨害した場合、レフリーはその競技者を競技会から排除することができる。また選手団の一員・コーチ・役員が競技を妨害した場合、レフリーは競技会の期間中、該当者を競技会場から退場させることができる。(6.4.17)
 - 6.4.18 レフリーは競技中に、あるジャッジの採点が不適当であるとみなした場合、そのジャッジを他のジャッジと交代させることができる。その場合、レフリーは上訴審に対して書面による報告を行うものとする。(6.4.18)
 - 6.4.19 規則 6.4.18に基づくジャッジの交代は、各競技種目、または各ラウンドの終了時に行う。(6.4.19)
- 6.5 演技中のレフリーの任務
- 6.5.1 飛板もしくは固定台上で競技者が助走中に停止するか、または立飛込で踏切動作中に踏みこむ足を止めた場合、

- レフリーはリスタートを宣言し、各ジャッジの採点から2点を減点するものとする。(6.5.1)
- 6.5.2 助走中・立飛込・逆立ちからの演技において、リスタートが生じた場合、レフリーは各ジャッジの採点から2点を減点する。(6.5.2)
- 6.5.3 2度目の演技(リスタート)にも失敗した場合、レフリーはFailed diveであると宣言する。(6.5.3)
- 6.5.4 競技者が飛板飛込の助走中または飛板の先端で2度跳ねた(double bounce)場合、または固定台で飛び出す前に2度飛び上がることをした場合、レフリーはFailed diveと宣言する。(6.5.4)
注 (double bounce) または (double jump) : 両足が踏切の前に飛板または固定台から離れる2回の連続ジャンプのこと。
- 6.5.5 走飛込において、踏切の一步手前を片足で行われな場合、レフリーはFailed diveと宣言する。(6.5.5)
- 6.5.6 飛板または固定台からの踏切において、両足同時に行われな場合、レフリーはFailed diveと宣言する。(6.5.6)
- 6.5.7 入水時にひねりの角度が通告よりも90度以上超えた場合、または足りなかつた場合、レフリーはFailed diveであると宣言する。(6.5.7)
- 6.5.8 足から入水する演技で片方または両方の腕が頭より上に残っていた場合、または頭から入水する演技で片方または両方の腕が頭より下に残っていた場合、レフリーはその採点を最高4.5点であると宣言する。それにもかかわらずジャッジが4.5点を超える採点を行った場合、レフリーはこれを4.5点到訂正させる。(6.5.8)
- 6.5.9 頭から入水する演技で足が頭や手よりも先に入水した場合、レフリーはFailed diveであると宣言する。(6.5.9)
- 6.5.10 足から入水する演技で頭や手が足よりも先に入水した場合、レフリーはFailed diveであると宣言する。(6.5.10)
- 6.6 競技終了後のレフリーの任務
- 6.6.1 各競技種目の終了時、レフリーは「記録報告用紙」に

署名をすることにより、最終結果を承認する。自動記録・掲示装置が使用されている場合、レフリーはプリントアウトされた「記録報告用紙」へ署名することにより最終結果を承認する。(6.6.1)

第7条 記録本部の任務

- 7.1 競技会の記録・計算は、2組の独立した記録員によって行なわれることが望ましい。(7.1)
- 7.2 得点計算を容易にする為に、コンピューター・計算機・計算早見表を使用しても良い。(7.2)
- 7.3 個人競技・ミックスチームイベント競技において採点はジャッジの席順に通告され、第一記録員は通告のとおり「ダイブシート」に記録する。シンクロナイズドダイビング競技においては席順に従いエクスキューションジャッジの採点、シンクロナイゼーションジャッジの採点の順に通告される。記録員は通告の通り「計算用紙」記入する。自動記録・掲示装置が使用される場合、モニターを見て「計算用紙」に記入しても良い。(7.3)
- 7.4 第二記録員は「ダイブシート」にジャッジの評点を記入する。コンピューターで得点を計算する場合、第二記録員はモニターから直接得点を記録してもよい。(7.3)
- 7.5 個人競技種目・チームダイビング競技では7人のジャッジの採点から最高点2人と最低点2人の採点を消去する。もし2人以上のジャッジが同じ採点をした場合どちらを消去しても良い。
5人のジャッジの場合、ジャッジの採点から最高点1人と最低点1人の採点を消去する。3人のジャッジの場合、ジャッジの採点は消去しない。(7.5)
- 7.6 シンクロナイズドダイビング競技において11人ジャッジが採用される場合、それぞれの選手を担当するエクスキューションジャッジの採点から最高点と最低点1人ずつ、ならびにシンクロナイゼーションジャッジの採点から最高点1

人と最低点1人を消去する。もし、消去されるべき同点の採点が2つ、あるいはそれ以上ある場合、そのいずれを消しても構わない。(7.6)

- 7.7 シンクロナイズドダイビング競技において9人ジャッジが採用される場合、演技ジャッジの採点から最高点1人と最低点1人、ならびに同調性ジャッジの採点から最高点1人と最低点1人を消去する。もし、消去されるべき同点の採点が2つ、あるいはそれ以上ある場合、そのいずれを消しても構わない。(7.7)

5人ジャッジ制のシンクロナイズドダイビング競技ではジャッジの採点は消去しない。

- 7.8 記録員はそれぞれ下記の例に従い、残された評点を加算し、それにその演技の難易度を掛けて得点を算出する。(7.8)

- ・個人競技およびチームダイビング競技

$$\begin{aligned} &5人ジャッジ制: \quad \cancel{8.0}, 7.5, 7.5, 7.5, \cancel{7.0} = 22.5 \\ &\quad \times 2.0 = 45.0 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} &7人ジャッジ制: \quad \cancel{8.0}, \cancel{7.5}, 7.5, 7.5, 7.5, \cancel{7.5}, \\ &\quad \cancel{7.0} = 22.5 \times 2.0 = 45.0 \end{aligned}$$

- ・シンクロナイズドダイビング競技

9人ジャッジ制:

$$\text{演技 1: } \cancel{7.0}, 6.5$$

$$\text{演技 2: } 5.5, \cancel{5.5}$$

$$\text{同調性: } \cancel{8.5}, 8.0, 8.0, 7.5, \cancel{7.5} = 35.5 \div 5 \\ \times 3$$

$$= 21.3 \times 2.8 = 59.64$$

11人ジャッジ制:

$$\text{演技 1: } \cancel{7.0}, 6.5, \cancel{6.0}$$

$$\text{演技 2: } \cancel{5.5}, 5.5, \cancel{7.0}$$

$$\text{同調性: } \cancel{8.0}, 8.0, 7.5, 8.0, \cancel{7.0} = 35.5 \div 5 \times \\ 3$$

$$= 21.3 \times 2.8 = 59.64$$

- 7.9 個人競技においてあるジャッジが、病気あるいは不測の事態により、ある演技の採点ができなかった場合、他のジャッジの採点の平均値を、そのジャッジの採点として採用する。その値は最も近い0.5点単位の点数とする。もし、平均値

小数点以下の端数が「0.01～0.24であった場合は切り捨て」「0.25～0.74であった場合は0.5にする」「0.75以上は次の整数まで切り上げる」。(7.9)

- 7.10 シンクロナイズドダイビング競技においてあるジャッジが、病気になるいは他の不測の事態により、ある演技の採点ができなかった場合、11人ジャッジの場合には同じ競技者を担当する他の2人のエクスキュージョントジャッジの平均値を、9人ジャッジの場合には同じ競技者を担当するもう1人のエクスキュージョントジャッジの採点を採用する。また採点をできなかったのがシンクロナイズーションジャッジの場合には他の4人の採点の平均値を欠けている採点として採用する。その値は最も近い0.5点単位の点数とする。もし、平均値小数点以下の端数が「0.01～0.24であった場合は切り捨て」「0.25～0.74であった場合は0.5にする」「0.75以上は次の整数まで切り上げ」。(7.10)
- 7.11 競技終了後、記録員は各計算用紙を照合し、競技結果が確定される。(7.11)
- 7.12 競技結果は通告により公表される。自動記録・掲示装置が使用される場合、順位の表示により公表される。(7.12)
- 7.13 記録本部は、自動記録・掲示装置が使用される場合、記録員は1人で良い。もし、自動記録・掲示装置が壊れた場合でも確実に最終結果の計算ができる様に記録員は評点(awards)と得点(electronic result)だけを記録する。(7.13)

第8条 採点方法

8.1 採点

8.1.1 ジャッジは演技全体の印象に基づき、以下の基準で0点から10点までの採点を行う。(8.1.1)

- ・ Excellent 10点
- ・ Very good 8.5点～9.5点
- ・ Good 7.0点～8.0点
- ・ Satisfactory 5.0点～6.5点

- ・ Deficient 2.5点～4.5点
 - ・ Very Deficient 0.5点～2.0点
 - ・ Faild dive (Completely failed) 0点
- 8.1.2 演技を採点する場合、ジャッジは決してその技術と完成度以外のいかなる要素にも影響されてはならない。また、競技者が開始の姿勢につくまでの動作、演技の難易度、水面下の動作は、採点に考慮してはならない。(8.1.2)
- 8.1.3 演技全体の印象を採点する場合に考慮される要素は、以下の技術と美しさである。(8.1.3)
- ・ 開始の姿勢とアプローチ
(the starting position and the approach)
 - ・ 踏切 (the take-off)
 - ・ 空中演技 (the flight)
 - ・ 入水 (the entry)
- 8.1.4 演技が通告以外の型で行われたことが明らかな場合、その演技はVery Deficientとみなされる。このような演技に対する採点は最高2点である。(8.1.4)
- 8.1.5 演技が通告された型以外の型で一部実行されたことが明らかな場合、各ジャッジは各自の判断により減点する。(8.1.5)
- 8.1.6 規定された通りの正しい型(伸型・蝦型・抱型・自由型)で演技が実行されていない場合、各ジャッジは各自の判断により0.5～2点を減点する。(8.1.6)
- 8.1.7 ジャッジは異なる演技種目の演技が実行されたと判断した場合、レフリーがそれに対してFailed diveと宣言しなくても0点を与えることができる。(8.1.7)
- 8.2 開始の姿勢
- 8.2.1 レフリーの合図により、開始の姿勢を取ること。(8.2.1)
- 8.2.2 開始の姿勢は、体を真っすぐに伸ばし、頭を起こし、両腕を真っすぐに伸ばす。腕の方向は任意である。(8.2.2)

- 8.2.3 開始の姿勢で、体を真っすぐに伸ばし、頭を起こし、両腕をいずれかの方向に真っすぐ伸ばすことができている場合、各ジャッジは各自の判断により0.5～2点を減点する。(8.2.3)
- 8.2.4 立飛込
- 8.2.4.1 立飛込の開始の姿勢は、競技者が飛板または固定台の先端に立った時とする。(8.2.4.1)
- 8.2.4.2 立飛込の演技において、競技者は踏切るまで足が飛板または固定台についたままでなければならない。(8.2.4.2)
- 8.2.4.3 足が踏切の前に飛板または固定台から離れた場合、各ジャッジは各自の判断により0.5～2点を減点する。(8.2.4.3)
- 8.2.5 走飛込
- 8.2.5.1 走飛込の開始の姿勢は、競技者が助走の第1歩を踏み出す用意ができた時とする。(8.2.5.1)
- 8.2.6 逆立ち飛込
- 8.2.6.1 逆立ち飛込の開始の姿勢は、両手が固定台の先端にあり、そして、両足が固定台より離れた時とみなす。(8.2.6.1)
- 8.2.6.2 逆立ちは、身体を伸ばし垂直な位置で静止し、確実に安定したバランスを保たなければならない。これらの要件が満たされていない場合、または、踏切の際に手が固定台から離れた場合は、ジャッジは各自の判断により0.5～2点を減点する(8.2.6.2)
- 8.2.6.3 以下の場合、リスタートされたものとし、レフリーは、リスタートを宣言して各ジャッジの採点から2.0点を減点する。
- ・ 競技者がバランスを崩し、片方または両手を固定台の先端の元の位置から動かした場合。
 - ・ 片方または両足が固定台に戻ったとき。
 - ・ 手以外の身体の一部が固定台に触れた時。

8.3 助走 (approach)

- 8.3.1 走飛込における助走はスムーズで美しく、飛板または固定台の先端まで連続的で、最後のステップは片足でなくてはならない。(8.3.1)
- 8.3.2 規則8.3.1の要件が満たされていない場合、各ジャッジは0.5～2点減点する。(8.3.2)
- 8.3.3 踏切の一步手前は、片足で行わなければならない。(8.3.1)
踏切の一步手前が片足でなく両足で実行された場合、レフリーがFailed diveと宣言しなくても、ジャッジは0点を与えることができる。(8.3.3)
- 8.3.4 ジャッジは競技者が演技を行う際にダブルバウンス、またはダブルジャンプをしたと判断した場合、レフリーがFailed diveと宣言しなくても0点を与えることができる。(8.3.4)

8.4 踏切 (take off)

- 8.4.1 飛板において、前宙返りと前逆宙返りの踏切は、競技者の選択で立飛込か走助走のいずれかで行うことができる。後宙返りと後踏切前宙返りの踏切は、立飛込で行う必要がある。(8.4.1)
- 8.4.2 固定台からの前宙返りにおいては、競技者の選択により、立飛込、走飛込いずれの踏切で行ってもよい。しかし、後宙返り、前逆宙返り、および後踏切前宙返りにおいては、立飛込で演技しなければならない(8.4.2)
- 8.4.3 飛板、または固定台からの踏切が両足同時に行われな
ない場合、レフリーがFailed diveと宣言しなくても、
ジャッジは0点を与えることができる。(8.4.4)
- 8.4.4 走飛込と立飛込では、踏切はバランスが取れて高さがあり、飛板または固定台の先端から行うものとする。(8.4.5)
- 8.4.5 踏切のバランスが取れておらず、高さが
ない場合、または飛板や固定台の先端から踏み切
っていない場合、

各ジャッジは自らの判断で0.5点～2点減点する。
(8.4.6)

- 8.4.6 ひねりを伴う演技種目において、飛板または固定台から離れる前にひねりを開始してはならない。離れる前に開始した場合、各ジャッジは各自の判断により0.5～2点減点をする。(8.4.6)

8.5 空中演技 (the Flight)

- 8.5.1 すべての演技において競技者は、飛板または固定台の延長線上で演技するものとする。(8.5.1)
- 8.5.2 規則8.5.1の要件が満たされていない場合、各ジャッジは各自の判断により減点する。(8.5.2)
- 8.5.3 演技中、競技者の手や足が飛板または固定台の先端に触れた場合、各ジャッジは各自の判断により減点する。(8.5.3)
- 8.5.4 演技中の競技者が危険なほど飛板または固定台に近い場合、または飛板または固定台に頭が触れた場合、ジャッジは採点を最高2点でおこなうものとする。ジャッジの過半数（5人ジャッジの場合3人、7人ジャッジの場合4人）が危険な演技だとして2点以下の採点をした場合、2点より高い採点はレフリーが2点に訂正させる。ジャッジは電子装置によって、あるいは電子装置が使えない場合は片手を上げて、2点以下の点が危険な演技によるものであったことをレフリーに示す。(8.5.4)

伸型 (A)

- 8.5.5 伸型では腰および膝を曲げず、両足をそろえ、爪先を伸ばさなければならない。腕の位置は任意である。(8.5.5)
- 8.5.6 伸び型が審美的に美しくなく、規定されているように示されない場合、各ジャッジは各自の判断により0.5点～2点減点する。(8.5.6)
- 8.5.7 すべての途中宙返りの演技においては、伸型の姿勢を明確に示さなければならない。その姿勢は、踏切直後、あるいは、1回宙返りを行なった直後に取りのものとする。

る。1回宙返りの場合には1/4回転（90度）の間、1回以上の宙返りの場合には少なくとも1/2回転（180度）の間、伸型の姿勢が示されない場合、採点は最高4.5点とする。（8.5.7）

蝦型（B）

- 8.5.8 蝦型では身体を股関節で曲げ、膝はまっすぐ伸ばし、両足をそろえ、爪先は伸ばさなければならない。腕の位置は任意である。（8.5.8）
- 8.5.9 蝦型が審美的に美しくなく、規定されているように示されない場合、各ジャッジは各自の判断により0.5点～2点減点する。（8.5.9）
- 8.5.10 ひねりを伴う蝦型の演技においては、蝦型を明確に示さなければならない。この型が示されない場合、各ジャッジは各自の判断で0.5～2点減点する。（8.5.10）

「参考図」



これらのイラストはあくまでも目安であり、入水時を除いて手の位置は任意である。

抱型（C）

- 8.5.11 抱型では身体を小さく膝と股関節で曲げられ、膝と足は肩幅の内側にそろえる。両手は下肢を抱え、爪先はのばさなければならない。（8.5.11）

「参考図」



- 8.5.12 抱型が審美的に美しくなく、規定されているように示

されていない場合、各ジャッジは各自の判断により0.5～2点減点する。(8.5.12)

- 8.5.13 ひねりを伴う抱型の演技においては、抱型を明確に示さなければならない。この型が示されない場合、各ジャッジは各自の判断で0.5～2点減点する。(8.5.13)

「参考図」



これらのイラストはあくまでも目安であり、入水時を除いて手の位置は任意である。

自由型 (D)

- 8.5.14 自由型では型の選択は任意であるが (A.BまたはC)、両足をそろえ、爪先を伸ばさなければならない。(8.5.14)
- 8.5.15 自由型が規定どおりに示されない場合、各ジャッジは各自の判断により0.5～2点減点する。(8.5.15)
- 8.5.16 ひねりを伴う宙返りの演技において、ひねりは空中で、演技のどのタイミングで行っても良い。
- 8.6 入水 (the Entry)
- 8.6.1 入水は、いかなる場合も身体を真っすぐに伸ばし、ひねらず、両足をそろえ、爪先を伸ばし、垂直またはほぼ垂直に近い角度でなければならない。(8.6.1)
- 8.6.2 入水がショートかオーバー、捻りや体が伸びていない、足がそろわず、つま先が伸びていない場合、各ジャッジは各自の判断により減点をする。(8.6.2)
- 8.6.3 頭からの入水では、腕は身体の線にそって頭上に伸ばし、両手を揃えて付けて実行しなければならない。片方または両方の腕が、頭より下に残っていた場合、レフリーがその採点を最高 4.5点であると宣言しなくても、ジャッジは最高4.5点で採点を行うことができる。(8.6.3)
- 8.6.4 足からの入水は、腕は肘を曲げずに身体に密着させな

なければならない。片方または両方の腕が頭より上に残っていた場合、レフリーがその採点を最高 4.5点であると宣言しなくても、ジャッジは最高4.5点で採点を行うことができる。(8.6.4)

- 8.6.5 規則8.6.3ならびに8.6.4に抵触する場合を除き、入水の際に腕が正しい位置にない場合、各ジャッジは各自の判断により0.5～2点を減点する。(8.6.5)
- 8.6.6 入水時にひねりの角度が通告よりも90度以上を超えた場合、または足りなかった場合、レフリーがFailed diveと宣言しなくても、ジャッジは0点を与えることができる。(8.6.6)
- 8.6.7 競技者の全身が完全に水面下に没した時点で、その演技が完了したものとする。(8.6.7)

第9条 シンクロナイズドダイビング競技、審判基準並びに採点方法

- 9.1 シンクロナイズドダイビング競技は個人の演技をエクスキューションジャッジが、同調性をシンクロナイゼーションジャッジが採点する。(9.1)
- 9.2 別段の定めがある場合を除き、個人演技の採点規則を適応するものとする(IV9.2)
- 9.3 シンクロナイゼーションジャッジは採点の対象に、演技の同調性の全体的印象も含めること。(9.3)
- 9.4 片方または両方の競技者が、通告とは異なる番号または型の演技を行なった場合、レフリーはFailed Diveを宣言する。(9.4)
- 9.5 シンクロナイゼーションジャッジの採点で、考慮される要素は以下の同調性である。(9.5)
 - ・開始の姿勢、アプローチ、踏切(高さを含む)
(the starting position, the approach, the take-off, including the similarity of the height)
 - ・空中動作のタイミング(the coordinated timing of the

movements during the flight)

- ・垂直な入水角度 (the similarity of the vertical angles of the entries)
 - ・飛板または固定台からの距離 (the comparative distance from the board or platform of the vertical entry)
 - ・入水のタイミング (the coordinated timing of the entry)
- 9.6 片方の競技者が飛板または固定台を離れる前に、もう一方の競技者が入水した場合、レフリーはFailed diveであると宣言する。(9.6)
- 9.7 片方または両方の競技者が演技のやり直しをした場合、レフリーは各ジャッジの採点から2点を減点する(9.7)
- 9.8 エクスキュージョンジャッジは採点にあたって、両方ではなく、担当した片方の競技者の演技技術以外のいかなる要因にも影響されてはならない。両競技者の演技にも、同調性の要因にも影響されてはならない。(9.8)
- 9.9 エクスキュージョンジャッジは異なる番号または異なる型の演技が実行されたと判断した場合、レフリーがそれに対してFailed diveと宣言しなくても0点を与える事ができる。9人ジャッジ制の場合はエクスキュージョンジャッジ片方2人が、11人ジャッジ制の場合は片方3人が0点を出した場合、レフリーはFailed diveであると宣言する。レフリーがFailed diveと宣言した場合、9人または11人全ての評点を0点とする。(9.9)
- 9.10 シンクロナイゼーションジャッジは採点にあたって、両競技者の同調性以外のいかなる要因にも影響されてはならず、両方の個人演技に影響されてはならない。(9.10)
- 9.11 すべてのシンクロナイゼーションジャッジが0点を出した場合、レフリーはFailed diveであると宣言する。(9.11)
- 9.12 シンクロナイゼーションジャッジは、次の項目に同調性が見られない場合、各項目ごとに0.5～2点を減点する。(9.12)
- ・開始の姿勢、アプローチ、踏切、高さ (Similarity of the starting position, approach, take-off and height)

- ・ 空中動作のタイミング (Coordinated timing of the movement during the flight)
 - ・ 垂直な入水角度 (Similarity of the vertical angles of the entries)
 - ・ 飛板または固定台からの距離 (Comparative distance from the board or platform of the vertical entry)
 - ・ 入水のタイミング (Coordinated timing of the entries)
9. 13 シンクロナイズドダイビング競技では、飛板上のすべての前方向の演技は助走を伴わなければならない。(第3. 6. 3項および第3. 6. 4項参照) 前方向の演技が助走を伴わない場合、レフリーはFailed diveであると宣言する。(9. 12)

第10条 減点要約

○レフリーが「Failed dive」と宣言するもの - 0点

6. 4. 8 レフリーが警告を行ってから1分以上経過した場合
6. 5. 4 飛板の先端で2度跳ねたり(ダブルバウンス)、固定台の先端で2度飛び上がったり(ダブルジャンプ)した場合
6. 5. 5 走飛込における踏切の一步手前を片足で行われぬ場合
6. 5. 6 飛板または固定台からの踏切において、両足同時に行われぬ場合、レフリーはFailed diveと宣言する。
(6. 5. 6)
6. 5. 7 ひねりの角度が通告よりも90度以上超えた場合、または足りなかつた場合
6. 4. 12 演技が通告以外の演技種目番号で行われたとレフリーが認めた場合。
6. 5. 9 頭から入水する演技で足が頭や手よりも先に入水した場合
6. 5. 10 足から入水する演技で頭や手が足よりも先に入水した場合

- 6.4.1.5 開始の合図後に他人の助力があったとレフリーが認めた場合。
- 6.5.3 2度目の演技（リスタート）にも失敗した場合。
- 6.4.16 競技者が演技の実行を拒んだ場合。
- 9.2 シンクロナイズドダイビング競技の演技において、両方または片方の選手が、通告と異なる番号や型で演技を実行した場合
- 9.6 シンクロダイビングで片方の競技者が、飛板または固定台を離れる前に、もう一方の競技者が入水した場合
- 9.9 シンクロダイビングで異なる番号、異なる型の演技が実行された場合
- 9.11 シンクロダイビングでシンクロナイゼーションジャッジ全員が、0点を出した場合
- レフリーが「2点減点」と宣言するもの
- 6.5.1 飛板もしくは固定台上で競技者が助走中に停止するか、または立飛込で踏切動作中に踏みこむ足を止めた場合
- 6.5.2 助走中・立飛込・逆立ちからの演技において、リスタートが生じた場合（第4条8.2.6.2項参照）
- レフリーが「最高2点」と宣言するもの
- 6.4.13 演技が通告以外の型で行われたことが明らかな場合
- レフリーが「最高4.5点」と宣言するもの
- 6.5.8 足から入水する演技で片方または両方の腕が頭より上に残っていた場合、または頭から入水する演技で片方または両方の腕が頭より下に残っていた場合
- ジャッジが「0点」を与えるもの
- 8.1.7 異なった番号の演技が実行されたと判断した場合
- 8.3.3 踏切の一步手前が片足でなく両足で実行された場合
- 8.3.4 競技者が演技を行う際にダブルバウンス、またはダブルジャンプをしたと判断した場合
- 8.4.3 飛板もしくは固定台からの踏切が、両足同時に行われなかった場合
- 8.6.6 ひねりの角度が通告よりも90度以上を超えた場合、または足りなかった場合

9.9 シンクロナイズドダイビング競技において、エクス
キューションジャッジが異なる番号または異なる型の
演技が実行されたと判断した場合

○ジャッジが「最高2点」を与えるもの

8.1.4 演技が通告以外の型で行われたことが明らかな場合

8.5.4 演技中の競技者が危険なほど飛板または固定台に近い
場合、または飛板または固定台に頭が触れた場合

○ジャッジが「最高4.5点」を与えるもの

8.5.7 途中宙返りの演技において、踏切の時から、もしくは
宙返りを1回した後で、1回宙返りの場合には90度以
上、1回半以上の宙返りの場合には180度以上の伸型の
姿勢が明確に示されない場合

8.6.3 頭からの入水する演技で、片方または両方の腕が頭よ
り下に残っていた場合

8.6.4 足からの入水する演技で、片方または両方の腕が頭よ
り上に残っていた場合

○ジャッジが「0.5点～2.0点減点」するもの

8.1.6 規定された通りの正しい型（伸型・蝦型・抱型・自由
型）で演技が実行されていない場合

8.2.3 開始の姿勢で、体を真っすぐに伸ばし、頭を起こし、
両腕をいずれかの方向に真っすぐ伸ばすことができ
ていない場合

8.2.4.3 踏切の前につま先が離れた場合（Crow hop）

8.2.6.2 逆立ちで、身体を伸ばし確実に安定した状態が保たれ
ていない場合、または、踏切の際に手が固定台から離
れた場合

8.3.2 走飛込における助走はスムーズで美しく、飛板または
固定台の先端まで連続的でなくてはならないという要
件が満たされていない場合

8.4.6 踏切のバランスが取れておらず、高さが低い場合、ま
たは飛板や固定台の先端から踏み切っていない場合

8.4.7 ひねりを伴う演技種目において、飛板または固定台か
ら離れる前にひねりを開始した場合

8.5.6 伸型で、腰及び膝を曲げず、両足をそろえ、爪先を伸

- ばさなければならぬと規定された伸型の要件が満たされない場合
- 8.5.9 蝦型で、身体を腰で折り曲げ、膝を曲げず、両足をそろえ、爪先を伸ばさなければならぬと規定された蝦型の要件が満たされない場合
- 8.5.10 ひねりを伴う蝦型の演技において、蝦型を明確に示さない場合
- 8.5.12 抱型で、身体を小さく腰及び膝で曲げ、膝と両足を肩幅の内側にそろえ、両手は下肢を抱え、爪先をつけないと規定された抱型の要件が満たされない場合
- 8.5.13 ひねりを伴う抱型の演技において、抱型を明確に示さない場合
- 8.5.15 自由型で、型の選択は任意であるが、両足をそろえ、爪先を伸ばさない場合
- 8.6.5 頭からの入水または足からの入水のいずれにおいても、際に腕が正しい位置にない場合
- 9.12 シンクロナイゼーションジャッジは、次の項目に同調性が見られない場合
- ・ 開始の姿勢・アプローチ・踏切・高さ
(Similarity of the starting position, approach, take-off and height)
 - ・ 空中動作のタイミング (Coordinated timing of the movement during the flight)
 - ・ 垂直な入水角度 (Similarity of the vertical angles of the entries)
 - ・ 飛板または固定台からの距離 (Comparative distance from the board or platform of the vertical entry)
 - ・ 入水のタイミング (Coordinated timing of the entries)

○ジャッジが「各自の判断により減点」するもの

- 8.1.5 演技が通告以外の型で一部実行された場合
- 8.5.2 飛板または固定台の延長線の方向から脇へ外れた場合

- 8.5.3 演技中、競技者の手や足が飛板または固定台の先端に触れた場合
- 8.6.2 入水は、いかなる場合も身体を真っすぐに伸ばし、ひねらず、両足をそろえ、爪先を伸ばし、垂直または、ほぼ垂直に近い角度でなければならないという要件が満たされていない場合

第11条 世界選手権およびオリンピック大会について

オリンピック大会および世界選手権において、飛板および高飛込競技では、World Aquatics 競技規則で定められた演技のみを行うものとする。

11.1 オリンピック大会のプログラム

	男子	女子
飛板飛込	3m	3m
高飛込	10m	10m
シンクロナイズトダイビング競技	3m, 10m	3m, 10m

11.2 世界選手権のプログラム

	男子	女子	ミックスチームイベント
飛板飛込	1 m 3m	1 m 3m	3m
高飛込	10m	10m	10m
シンクロナイズトダイビング競技	3m, 10m	3m, 10m	3m, 10m

第12条 エージ・グループ競技規則

- 12.1 本連盟飛込競技規則は、すべてのエージ・グループ競技会に適用される。
- 12.2 年齢区分:すべてのエージ・グループ競技者には、競技開催年最終日12月31日の年齢をもって1月1日から12月31日までの年度に適用する。

12.3 飛込競技

12.3.1 グループA

12.3.1.1 年齢:競技会の年(当該年)の12月31日において
16・17・18歳。

12.3.1.2 競技種目と組み合わせ

12.3.1.2.1 個人種目

女子飛板飛込競技

女子1m飛板飛込競技は、異なる9演技種目で構成される。

- ・制限選択飛:各群より5演技種目(難易度合計9.0以内)
- ・自由選択飛:異群より4演技種目

女子3m飛板飛込競技は、異なる9演技種目で構成される。

- ・制限選択飛:各群より5演技種目(難易度合計9.5以内)
- ・自由選択飛:異群より4演技種目

女子高飛込(5m・7.5m・10m)競技

女子高飛込競技は、異なる8演技種目で構成される。

(5つ以上の群より選択)

- ・制限選択飛:異群より4演技種目(難易度合計7.6以内)
- ・自由選択飛:異群より4演技種目

男子飛板飛込競技

男子1m飛板飛込競技は、異なる10演技種目で構成される。

- ・制限選択飛:各群より5演技種目(難易度合計9.0以内)
- ・自由選択飛:異群より5演技種目

男子3m飛板飛込競技は、異なる10演技種目で構成される。

- ・制限選択飛:各群より5演技種目(難易度合計9.5以内)
- ・自由選択飛:異群より5演技種目

男子高飛込(5m・7.5m・10m)競技

男子高飛込競技は、異なる9演技種目で構成される。

(6つの群より選択)

- ・制限選択飛:異群より4演技種目(難易度合計7.6以内)
- ・自由選択飛:各群より5演技種目

12.3.1.2.2 (年齢区分:グループA・B混合)

女子・男子シンクロナイズドダイビング3m飛板飛込競技

女子・男子のシンクロナイズドダイビング3m飛板飛込競

技は4つ以上の群より選択された、異なる5演技種目で構成される。

- ・難易度構成表にかかわらず難易度を2.0とみなすもの
：初めの2演技種目
- ・自由選択飛：3演技種目

飛板での前向きの演技はすべて助走を伴って行わなければならない

女子・男子シンクロダイビング高飛込競技

女子・男子シンクロナイズドダイビング高飛込（5m・7.5m・10m）競技は異なる4つの群より選択された、5演技種目で構成される。

- ・難易度構成表にかかわらず難易度を2.0とみなすもの
：初めの2演技種目
- ・自由選択飛：3演技種目

ミックスチームイベント

ミックスチームイベントは、少なくとも女子1名と男子1名で構成され、4名以下とする。チーム内にはBグループから最低1名の競技者が含まなければならない。

- ・6つの群から選択した6演技種目で構成される。難易度の制限はない。
- ・2演技種目は女子選手が、2演技種目は男子選手が行い、2演技は男女1組のミックスシンクロナイズドチームによって行われる。
- ・3演技種目は3m飛板から、残りの3演技種目は5m、7.5m、10m固定台から行う。
- ・難易度の制限はなしで行う。

ミックスチームイベントでは、以下の順に競技を行う。

第1ラウンド：女子3m飛板飛込
：男子3m飛板飛込

第2ラウンド：ミックスシンクロナイズド3m飛板飛込

第3ラウンド：女子5m/7.5m/10m高飛込
：男子5m/7.5m/10m高飛込

第4ラウンド：ミックスシンクロナイズド5m/7.5m/10m高飛込

12.3.2 グループB

12.3.2.1 年齢：競技会の年(当該年)の12月31日において14・15歳。

12.3.2.2 競技種目と組み合わせ

12.3.2.2.1 個人種目

女子飛板飛込競技

女子1m飛板飛込競技は、異なる8演技種目で構成される。

- ・制限選択飛：各群より5演技種目（難易度合計9.0以内）
- ・自由選択飛：異群より3演技種目

女子3m飛板飛込は、異なる8演技種目で構成される。

- ・制限選択飛：各群より5演技種目（難易度合計9.5以内）
- ・自由選択飛：異群より3演技種目

女子高飛込（5m・7.5m・10m）競技

女子高飛込競技は、異なる7演技種目で構成される。

（5つ以上の群より選択）

- ・制限選択飛：各群より4演技種目（難易度合計7.6以内）
- ・自由選択飛：異群より3演技種目

男子飛板飛込競技

男子1m飛板飛込競技は、異なる9演技種目で構成される。

- ・制限選択飛：各群より5演技種目（難易度合計9.0以内）
- ・自由選択飛：異群より4演技種目

男子3m飛板飛込は、異なる9演技種目で構成される。

- ・制限選択飛：各群より5演技種目（難易度合計9.5以内）
- ・自由選択飛：異群より4演技種目

男子高飛込（5m・7.5m・10m）競技

男子高飛込競技、異なる8演技種目で構成される。

（5つ以上の群より選択）

- ・制限選択飛：異群より4演技種目（難易度合計7.6以内）
- ・自由選択飛：異群より4演技種目

12.3.3 グループC

12.3.3.1 年齢：競技会の年(当該年)の12月31日において12・13歳。

12.3.3.2 競技種目と組み合わせ

12.3.3.2.1 個人種目

女子飛板飛込競技

女子1m飛板飛込競技は、異なる7演技種目で構成される。

- ・制限選択飛：各群より5演技種目（難易度合計9.0以内）
- ・自由選択飛：異群より2演技種目

女子3m飛板飛込競技は、異なる7演技種目で構成される。

- ・制限選択飛：各群より5演技種目（難易度合計9.5以内）
- ・自由選択飛：異群より2演技種目

女子高飛込（5m、7.5m）競技

女子高飛込競技は、異なる6演技種目で構成される。

- ・制限選択飛：異群より4演技種目（難易度合計7.6以内）
- ・自由選択飛：異群より2演技種目

男子飛板飛込競技

男子1m飛板飛込競技は、異なる8演技種目で構成される。

- ・制限選択飛：各群より5演技種目（難易度合計9.0以内）
- ・自由選択飛：異群より3演技種目

男子3m飛板飛込競技は、異なる8演技種目で構成される。

- ・制限選択飛：各群より5演技種目（難易度合計9.5以内）
- ・自由選択飛：異群より3演技種目

男子高飛込（5m、7.5m）競技

男子高飛込競技は、異なる7演技種目で構成される。

- ・制限選択飛：異群より4演技種目（難易度合計7.6以内）
- ・自由選択飛：異群より3演技種目

12.3.4 グループD

12.3.4.1 年齢：競技会の年（当該年）の12月31日において9・10・11歳。

12.3.4.2 競技種目と組み合わせ

12.3.4.2.1 個人種目

女子・男子1m飛板飛込競技

女子・男子1m飛板飛込競技は、異なる6演技種目で構成される。（4つ以上の群より選択）

- ・制限選択飛：異群より3演技種目（難易度合計5.4以内）
- ・自由選択飛：異群より3演技種目

12.4 世界ジュニア選手権一般競技規則

12.4.1 世界ジュニア選手権は2年に一度、グループAとグループBで開催される。

- 12.4.2 各連盟は、個人種目では最大2名の選手、シンクロナイズドダイビング競技では1チームをエントリーできる。
- 12.4.3 各選手は、それぞれの年齢グループでのみ競技を行う。
- 12.4.4 各選手は、自分の年齢グループで決められた演技種目を全て行うこと。
- 12.4.5 各個人種目は予選と決勝を行い、参加選手数に関係なく複数のセッションで行うことができる。
 - 12.4.5.1 予選の上位12名の選手は、自由選択飛のみを行う決勝へと進むことができる。予選の制限選択飛の得点は決勝へと持ち越され、決勝での自由選択飛の得点と合算されて上位12名の順位が決定する。12位以下の選手は、予選の得点で順位を決定する。
 - 12.4.5.2 施設が許す場合、テクニカル・ダイビング・コミティの勧告に基づいて大会事務局が承認すれば、予選競技を2試合同時進行することがある。
 - 12.4.5.3 競技のプログラムスケジュールは、テクニカル・ダイビング・コミティの推薦により事務局によって合意されるものとする。
- 12.4.6 各競技者は、自身の年齢区分のカテゴリーにのみ出場するものとする。
- 12.4.7 個人種目では5名または7名のジャッジが、シンクロナイズドダイビング競技では9名のジャッジが審判を行う。

注：可能であれば、シンクロナイズド・ダイビング競技の審判員は11名とすることができる。
- 12.4.8 本大会は、通常、競泳、水球、アーティスティックスイミングとは別に実施されるものとし、併催はしない。
- 12.4.9 世界ジュニア選手権大会は、最低7日間の期間で実施される。

12.5 競技会

本連盟主催のエイジ・グループ公式競技会における競技方法は本連盟飛込委員会の提案に基づき、競技会要項に別に定める。

第13条 抗議

- 13.1 競技会において規則、または競技会要項が順守されていない場合、あるいは演技が何か特別の事情により影響を受けた場合には抗議をすることができる。ただし、レフリーによって承認された採点そのものには抗議することができない。(I 13.1.1)
- 13.2 競技中に発生した事項に関しては、競技者またはチーム責任者は、演技の実行直後に口頭による申し立てをすることができる。もし口頭による申し立てが受け入れられなかった場合、チームの責任者は文書による抗議を該当する競技終了後30分以内に抗議料50,000円を添えてレフリー宛提出することができる。(I 13.1.2)
- 13.3 すべての抗議はレフリーによって裁定される。抗議を拒絶する場合、レフリーは拒絶の理由を表明しなければならない。その場合、チーム責任者はその拒絶を本連盟、または加盟団体から任命された大会総務に申告することができる。大会総務による裁定は最終決定である。

第14条 その他

- 14.1 競技会要件
 - 14.1.1 競技日程・場所・競技の内容・参加資格等の要項は、競技会初日の3週間前までに一般に公表されていなければならない。
 - 14.1.2 競技会参加者は、本連盟または加盟団体の特別の承認がない限り、本連盟の競技資格規定に基づき登録された競技者に限られる。
 - 14.1.3 主要競技役員は、本連盟の公認競技役員で構成されなければならない。
 - 14.1.4 競技施設は本連盟のプール公認規則に基づき公認されたものでなければならない。
 - 14.1.5 プールコンディションは競技会の期間を通じて次の条件を満たしていなければならない。

- ・静水であること
- ・水温は28℃以上であること
- ・水位は満水の状態で一定の高さが保たれていること
- ・発泡装置または散水装置により、水面攪拌が行われること
- ・屋内施設の場合、照明設備の照度は、競技中、練習中とともに同一であること

14.2 水泳着

すべての競技会において競技者は水泳着を着用しなければならない。水泳着は、見苦しいものや、不謹慎なものの着用を禁ずる。レフリーは競技者の水泳着が透けているもの等、規定にあてはまらない時は、その競技者の出場をやめさせる。

14.3 宣伝・広告

14.3.1 すべての競技者・監督・コーチおよび役員は、競技会の競技場内では「競泳競技会において着用、または携行することが出来る水泳用品・用具の商業ロゴマークについての取扱規定」に定める用品・用具以外の物品を着用・携行して宣伝・広告の媒体となってはならない。

14.3.2 公式および公認競技会のシンボルマークや、本連盟が認めたものは、この規定から除外する。

14.4 施設・設備・機器

競技会において使用する施設・設備・機器類は、本連盟によって公認または承認されたものでなければならない。また、公認されたものの内でも最高の機能を有するものを使用するように努めなければならない。特に、本連盟が主催する競技会（公式競技会）と本連盟により公認された競技会（公認競技会）で使用する飛板については、製造後5年以内のものとする。

付則 本規則は2026年4月1日以降開催される競技会に適用される。

付録 1

難易度構成表
飛板飛込 難易度 = A + B + C + D + E

A 宙返り

	0	1/2	1	1 1/2	2	2 1/2	3	3 1/2	4	4 1/2
1m	0.9	1.1	1.2	1.6	2.0	2.4	2.7	3.0	3.3	3.8
3m	1.0	1.3	1.3	1.5	1.8	2.2	2.3	2.8	2.9	3.5

B 空中姿勢 途中宙返りでは(B)または(C)に(E)を加える。

宙返り	0-1			1 1/2-2			2 1/2			3-3 1/2			4 1/2			
	前	後	前逆	前	後	前逆	前	後	前逆	前	後	前逆	前	後	前逆	
C = 抱型	0.1	0.1	0.1	0	0	0	0	0.1	0	0.2	0	0	0	0.1	0.2	0.4
B = 蛸型	0.2	0.2	0.2	-0.2	0.1	0.3	0.3	0.3	0.2	0.5	0.3	0.3	0.3	0.4	0.5	0.8
A = 伸型	0.3	0.3	0.3	0.1	0.4	0.5	0.6	0.8	0.6	0.7	0.6	-	-	-	-	-
D = 自由形	0.1	0.1	0.1	-0.1	0	-0.1	0.2	0	-0.2	0.4	0	0	0	-	-	-
E = 途中宙返	0.2	0.1	0.1	0.4	0.2	0.2	0.2	0.5	0.3	0.3	0.7	0.4	-	-	-	-

C 捻り

宙返り	1/2		1/2		1		1 1/2		2		2 1/2		3		3 1/2		4		4 1/2 s	
	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後
宙返り	1/2-1	1/2-2	2/2	3-3 1/2	1/2-2	2/2-3 1/2	1/2-2	2/2-3 1/2	1/2-2	2/2-3 1/2	1/2-2	2/2-3 1/2	2/2-3 1/2	2/2-3 1/2	2/2-3 1/2	2/2-3 1/2	2/2-3 1/2	2/2-3 1/2	2/2-3 1/2	2/2-3 1/2
前	0.4	0.4	0.4	0.4	0.6	0.6	0.8	0.8	1.0	1.2	1.2	1.2	1.5	1.6	1.9	2.0	2.1	2.1	2.1	2.1
後	0.2	0.4	0	0	0.4	0.8	0.7	0.8	0.8	1.2	1.1	1.4	1.4	1.8	1.8	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1
前逆	0.2	0.4	0	0	0.4	0.8	0.6	0.8	1.2	1.0	1.4	1.4	1.8	1.8	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1
後前	0.2	0.4	0.2	0.4	0.4	0.4	0.8	0.8	0.8	1.2	1.2	1.5	1.6	1.9	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0

- (1) 半回転の宙返りで捻りを伴う演技は、伸型、蛸型、抱型の中から摘要する。
- (2) 1回または1回転半の宙返りで捻りを伴う演技は、自由型で摘要する。
- (3) 2回転以上の宙返りで捻りを伴う演技は、蛸型、抱型の中から摘要する。

D 踏切 1. 前・後・前逆・後前

方向	前		後		前逆		後前	
	½ ~ 3½	4 ~ 4½	½ ~ 3	3½ ~ 4½	½ ~ 3	3½ ~ 4½	½ ~ 1	1½ ~ 4½
宙返り	0	0.5	0.2	0.6	0.3	0.5	0.6	0.5
1m	0	0.3	0.2	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3
3m								

E 入水 (捻りは除く)

宙返り	½	1	1½	2	2½	3	3½	4	4½
前 / 後前	-	0.1	-	0.2	-	0.2	-	0.2	-
後 / 前逆	0.1	-	0.2	-	0.3	-	0.4	-	0.4

Examples

演技番号	型	高さ	A	B	C	D	E	DD
636	C	10	2.5	0.2	0	0.5	0.2	3.4
5253	B	3	2.2	0.3	0.6	0.2	0	3.3
6241	B	10	1.9	0.3	0.5	0	0	2.7
5255	B	10	2.1	0.3	1.0	0.2	0	3.6

演技番号	型	高さ	A	B	C	D	E	DD
313	C	3	1.5	0.2	0	0.3	0.2	2.2
5255	B	3	2.2	0.3	1.0	0.2	0	3.7
5355	B	3	2.2	0.2	1.0	0.3	0	3.7
5237	D	10	1.5	-0.1	1.7	0.2	0	3.3

難易度表
(飛板飛込)

	飛板飛込	1 METER				3 METER			
		伸 (STR)	蹴 (PIKE)	抱 (TUCK)	自由 (FREE)	伸 (STR)	蹴 (PIKE)	抱 (TUCK)	自由 (FREE)
	第1群 前飛込								
101	前飛	A	B	C	D	A	B	C	D
	Forward Group	1.4	1.3	1.2	-	1.6	1.5	1.4	-
	Forward Dive	1.4	1.3	1.2	-	1.6	1.5	1.4	-
102	前宙返り 1回	1.6	1.5	1.4	-	1.7	1.6	1.5	-
	Forward Somersault	1.6	1.5	1.4	-	1.7	1.6	1.5	-
103	前宙返り 1回半	2.0	1.7	1.6	-	1.9	1.6	1.5	-
	Forward 1½ Somersaults	2.0	1.7	1.6	-	1.9	1.6	1.5	-
104	前宙返り 2回	2.6	2.3	2.2	-	2.4	2.1	2.0	-
	Forward 2 Somersaults	2.6	2.3	2.2	-	2.4	2.1	2.0	-
105	前宙返り 2回半	-	2.6	2.4	-	2.8	2.4	2.2	-
	Forward 2½ Somersaults	-	2.6	2.4	-	2.8	2.4	2.2	-
106	前宙返り 3回	-	3.2	2.9	-	-	2.8	2.5	-
	Forward 3 Somersaults	-	3.2	2.9	-	-	2.8	2.5	-
107	前宙返り 3回半	-	3.3	3.0	-	-	3.1	2.8	-
	Forward 3½ Somersaults	-	3.3	3.0	-	-	3.1	2.8	-
108	前宙返り 4回	-	-	4.0	-	-	3.8	3.4	-
	Forward 4 Somersaults	-	-	4.0	-	-	3.8	3.4	-
109	前宙返り 4回半	-	-	4.3	-	-	4.2	3.8	-
	Forward 4½ Somersaults	-	-	4.3	-	-	4.2	3.8	-
112	前途中宙返り	-	1.7	1.6	-	-	1.8	1.7	-
	Forward Flying Somersault	-	1.7	1.6	-	-	1.8	1.7	-
113	前途中宙返り 1回半	-	1.9	1.8	-	-	1.8	1.7	-
	Forward Flying 1½ Somersaults	-	1.9	1.8	-	-	1.8	1.7	-
115	前途中宙返り 2回半	-	-	-	-	-	2.7	2.5	-
	Forward Flying 2½ Somersaults	-	-	-	-	-	2.7	2.5	-

	第2群 後飛込	1 METER				3 METER			
		伸 (STR)	蹴 (PIKE)	抱 (TUCK)	自由 (FREE)	伸 (STR)	蹴 (PIKE)	抱 (TUCK)	自由 (FREE)
	Back Group								
201	後飛	A	B	C	D	A	B	C	D
	Back Dive	1.7	1.6	1.5	-	1.9	1.8	1.7	-
202	後宙返り 1回	1.7	1.6	1.5	-	1.8	1.7	1.6	-
	Back Somersault	1.7	1.6	1.5	-	1.8	1.7	1.6	-
203	後宙返り 1回半	2.5	2.3	2.0	-	2.4	2.2	1.9	-
	Back 1½ Somersaults	2.5	2.3	2.0	-	2.4	2.2	1.9	-
204	後宙返り 2回	-	2.5	2.2	-	2.5	2.3	2.0	-
	Back 2 Somersaults	-	2.5	2.2	-	2.5	2.3	2.0	-
205	後宙返り 2回半	-	3.2	3.0	-	-	3.0	2.8	-
	Back 2½ Somersaults	-	3.2	3.0	-	-	3.0	2.8	-
206	後宙返り 3回	-	3.2	2.9	-	-	2.8	2.5	-
	Back 3 Somersaults	-	3.2	2.9	-	-	2.8	2.5	-
207	後宙返り 3回半	-	-	-	-	-	3.9	3.6	-
	Back 3½ Somersaults	-	-	-	-	-	3.9	3.6	-
208	後宙返り 4回	-	-	-	-	-	3.7	3.4	-
	Back 4 Somersaults	-	-	-	-	-	3.7	3.4	-
209	後宙返り 4回半	-	-	-	-	-	4.7	4.4	-
	Back 4½ Somersaults	-	-	-	-	-	4.7	4.4	-
212	後途中宙返り	-	1.7	1.6	-	-	1.8	1.7	-
	Back Flying Somersault	-	1.7	1.6	-	-	1.8	1.7	-

213	後途中宙返り 1回半	Back Flying 1½ Somersaults	-	-	-	-	-	-	2.4	2.1	-
215	後途中宙返り 2回半	Back Flying 2½ Somersaults	-	-	-	-	-	-	3.3	3.1	-

第3群 前逆飛込											
		Reverse Group	A	B	C	D	A	B	C	D	
301	前逆飛	Reverse Dive	1.8	1.7	1.6	-	2.0	1.9	1.8	-	-
302	前逆宙返り 1回	Reverse Somersault	1.8	1.7	1.6	-	1.9	1.8	1.7	-	-
303	前逆宙返り 1回半	Reverse 1½ Somersaults	2.7	2.4	2.1	-	2.6	2.3	2.0	-	-
304	前逆宙返り 2回	Reverse 2 Somersaults	2.9	2.6	2.3	-	2.7	2.4	2.1	-	-
305	前逆宙返り 2回半	Reverse 2½ Somersaults	-	3.2	3.0	-	3.4	3.0	2.8	-	-
306	前逆宙返り 3回	Reverse 3 Somersaults	-	3.3	3.0	-	-	2.9	2.6	-	-
307	前逆宙返り 3回半	Reverse 3½ Somersaults	-	-	-	-	-	3.8	3.5	-	-
308	前逆宙返り 4回	Reverse 4 Somersaults	-	-	-	-	-	3.7	3.4	-	-
309	前逆宙返り 4回半	Reverse 4½ Somersaults	-	-	-	-	-	4.7	4.4	-	-
312	前逆途中宙返り	Reverse Flying Somersault	-	1.8	1.7	-	-	1.9	1.8	-	-
313	前逆途中宙返り 1回半	Reverse Flying 1½ Somersaults	-	2.6	2.3	-	-	2.5	2.2	-	-

第4群 後踏切前飛込											
		Inward Group	A	B	C	D	A	B	C	D	
	後踏切前飛	Inward Dive	1.8	1.5	1.4	-	1.7	1.4	1.3	-	-
401	後踏切前宙返り 1回	Inward Somersault	2.0	1.7	1.6	-	1.8	1.5	1.4	-	-
403	後踏切前宙返り 1回半	Inward 1½ Somersaults	-	2.4	2.2	-	-	2.1	1.9	-	-
404	後踏切前宙返り 2回	Inward 2 Somersaults	-	3.0	2.8	-	-	2.6	2.4	-	-
405	後踏切前宙返り 2回半	Inward 2½ Somersaults	-	3.4	3.1	-	-	3.0	2.7	-	-
407	後踏切前宙返り 3回半	Inward 3½ Somersaults	-	-	-	-	-	3.7	3.4	-	-
409	後踏切前宙返り 4回半	Inward 4½ Somersaults	-	-	-	-	-	4.6	4.2	-	-
412	後踏切前途中宙返り	Inward Flying Somersault	-	2.1	2.0	-	-	1.9	1.8	-	-
413	後踏切前途中宙返り 1回半	Inward Flying 1½ Somersaults	-	2.9	2.7	-	-	2.6	2.4	-	-

	Twisting Group	1m				3m			
		A	B	C	D	A	B	C	D
第5群 捻り飛込									
5111	前飛 半回捻り	1.8	1.7	1.6	-	2.0	1.9	1.8	-
5112	前飛 1回捻り	2.0	1.9	-	-	2.2	2.1	-	-
5121	前宙返り 1回 半回捻り	-	-	-	1.7	-	-	-	1.8
5122	前宙返り 1回 1回捻り	-	-	-	1.9	-	-	-	2.0
5124	前宙返り 1回 2回捻り	-	-	-	2.3	-	-	-	2.4
5126	前宙返り 1回 3回捻り	-	-	-	2.8	-	-	-	2.9
5131	前宙返り 1回半 半回捻り	-	-	-	2.0	-	-	-	1.9
5132	前宙返り 1回半 1回捻り	-	-	-	2.2	-	-	-	2.1
5134	前宙返り 1回半 2回捻り	-	-	-	2.6	-	-	-	2.5
5136	前宙返り 1回半 4回捻り	-	-	-	3.1	-	-	-	3.0
5138	前宙返り 1回半 4回捻り	-	-	-	3.5	-	-	-	3.4
5151	前宙返り 2回半 半回捻り	-	3.0	2.8	-	-	2.8	2.6	-
5152	前宙返り 2回半 1回捻り	-	3.2	3.0	-	-	3.0	2.8	-
5154	前宙返り 2回半 2回捻り	-	3.6	3.4	-	-	3.4	3.2	-
5156	前宙返り 2回半 3回捻り	-	-	-	-	-	3.9	3.7	-
5172	前宙返り 3回半 1回捻り	-	-	-	-	-	3.7	3.4	-
Back Dive ½ Twist									
5211	後飛 半回捻り	1.8	1.7	1.6	-	2.0	1.9	1.8	-
5212	後飛 1回捻り	2.0	-	-	-	2.2	-	-	-
Back Somersault ½ Twist									
5221	後宙返り 1回 半回捻り	-	-	-	1.7	-	-	-	1.8
5222	後宙返り 1回 1回捻り	-	-	-	1.9	-	-	-	2.0
5223	後宙返り 1回 1回半捻り	-	-	-	2.3	-	-	-	2.4
5225	後宙返り 1回 2回半捻り	-	-	-	2.7	-	-	-	2.8
5227	後宙返り 1回 3回半捻り	-	-	-	3.2	-	-	-	3.3
Back Somersault ¾ Twist									
5231	後宙返り 1回半 半回捻り	-	-	-	2.1	-	-	-	2.0
5233	後宙返り 1回半 1回半捻り	-	-	-	2.5	-	-	-	2.4
5235	後宙返り 1回半 2回半捻り	-	-	-	2.9	-	-	-	2.8
5237	後宙返り 1回半 3回半捻り	-	-	-	-	-	-	-	3.3
5239	後宙返り 1回半 4回半捻り	-	-	-	-	-	-	-	3.7
Back 2½ Somersaults ½ Twist									
5251	後宙返り 2回半 半回捻り	-	2.9	2.7	-	-	2.7	2.5	-

5253	後宙返り 2回半 1回半捻り	Back 2½ Somersaults 1½ Twists	-	-	-	-	-	-	-	3.4	3.2	-
5255	後宙返り 2回半 2回半捻り	Back 2½ Somersaults 2½ Twists	-	-	-	-	-	-	-	3.8	3.6	-
5311	前逆飛 半回捻り	Reverse Dive ½ Twist	1.9	1.8	1.7	-	-	-	2.1	2.0	1.9	-
5312	前逆飛 1回捻り	Reverse Dive 1 Twist	2.1	-	-	-	-	-	2.3	-	-	-
5321	前逆宙返り 1回 半回捻り	Reverse Somersault ½ Twist	-	-	-	1.8	-	-	-	-	-	1.9
5322	前逆宙返り 1回 1回捻り	Reverse Somersault 1 Twist	-	-	-	2.0	-	-	-	-	-	2.1
5323	前逆宙返り 1回 1回半捻り	Reverse Somersault 1½ Twists	-	-	-	2.4	-	-	-	-	-	2.5
5325	前逆宙返り 1回 2回半捻り	Reverse Somersault 2½ Twists	-	-	-	2.8	-	-	-	-	-	2.9
5331	前逆宙返り 1回半 半回捻り	Reverse ½ Somersaults ½ Twist	-	-	-	2.2	-	-	-	-	-	2.1
5333	前逆宙返り 1回半 1回半捻り	Reverse ½ Somersaults 1½ Twists	-	-	-	2.6	-	-	-	-	-	2.5
5335	前逆宙返り 1回半 2回半捻り	Reverse ½ Somersaults 2½ Twists	-	-	-	3.0	-	-	-	-	-	2.9
5337	前逆宙返り 1回半 3回半捻り	Reverse ½ Somersaults 3½ Twists	-	-	-	3.6	-	-	-	-	-	3.5
5339	前逆宙返り 1回半 4回半捻り	Reverse ½ Somersaults 4½ Twists	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.8
5351	前逆宙返り 2回半 半回捻り	Reverse 2½ Somersaults ½ Twist	-	2.9	2.7	-	-	-	-	2.7	2.5	-
5353	前逆宙返り 2回半 1回半捻り	Reverse 2½ Somersaults 1½ Twists	-	3.5	3.3	-	-	-	-	3.3	3.1	-
5355	前逆宙返り 2回半 2回半捻り	Reverse 2½ Somersaults 2½ Twists	-	3.9	3.7	-	-	-	-	3.7	3.5	-
5371	前逆宙返り 3回半 半回捻り	Reverse 3½ Somersaults ½ Twist	-	-	-	-	-	-	-	3.4	3.1	-
5373	前逆宙返り 3回半 1回半捻り	Reverse 3½ Somersaults 1½ Twists	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.7
5375	前逆宙返り 3回半 2回半捻り	Reverse 3½ Somersaults 2½ Twists	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.1
5411	後踏切前飛 半回捻り	Inward Dive ½ Twist	2.0	1.7	1.6	-	-	-	-	1.6	1.5	-
5412	後踏切前飛 1回捻り	Inward Dive 1 Twist	2.2	1.9	1.8	-	-	-	1.9	1.8	1.7	-
5421	後踏切前宙返り 1回 半回捻り	Inward Somersault ½ Twist	-	-	-	1.9	-	-	-	-	-	1.7
5422	後踏切前宙返り 1回 1回捻り	Inward Somersault 1 Twist	-	-	-	2.1	-	-	-	-	-	1.9
5432	後踏切前宙返り 1回半 1回捻り	Inward 1½ Somersaults 1 Twist	-	-	-	2.7	-	-	-	-	-	2.4
5434	後踏切前宙返り 1回半 2回捻り	Inward 1½ Somersaults 2 Twists	-	-	-	3.1	-	-	-	-	-	2.8
5436	後踏切前宙返り 1回半 3回捻り	Inward 1½ Somersaults 3 Twists	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.5

付録 3

難易度構成表
高飛込 難易度 = A + B + C + D + E

A	宙返り									
	0	1	1½	2	2½	3	3½	4	4½	5
5m	0.9	1.1	1.2	1.6	2.0	2.4	2.7	3.0	-	-
7½m	1.0	1.3	1.3	1.5	1.8	2.2	2.3	2.8	3.5	3.5
10m	1.0	1.3	1.4	1.5	1.9	2.1	2.5	2.7	3.5	4.5

B 空中姿勢 途中宙返りでは(B)または(C)に(E)を加える。

宙返り方向	0~1			1½~2			2½			3~3½			4½			5½						
	前	後	逆	前	後	逆	前	後	逆	前	後	逆	前	後	逆	前	後	逆				
C = 抱型	0.1	0.1	-0.3	0.1	0	0	0.1	0	0.1	0	0.2	0.1	0	0	0.3	0.2	0	0.1	0.3	0.4	0.3	0
B = 鬆型	0.2	0.2	-0.2	0.3	0.1	0.3	0.3	0.3	0.2	0.3	0.2	0.5	0	0.3	0.3	0.6	0.4	0.4	0.6	0.7	0.5	-
A = 伸型	0.3	0.3	0.1	0.4	0.5	0.6	0.8	0.5	0.6	0.7	0.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
D = 自由形	0.1	0.1	-0.1	0	0	-0.1	-0.1	0.2	0	-0.1	-0.2	0.4	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-
E = 途中宙返	0.2	0.1	0.1	0.4	-	0.2	0.2	0.5	-	0.3	0.3	0.7	-	0.4	-	-	-	-	-	-	-	-

C 捻り

捻り宙返り	¾~1		1½~2		¾~3		1		1½		2		2½		3		3½		4		4½	
	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後
前	0.4	0.4	0.4	0.4	0.6	0.8	0.8	1.0	1.2	1.2	1.2	1.5	1.6	1.6	1.9	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
後	0.2	0.4	0	0.4	0.8	0.6	0.8	1.2	1.0	1.4	1.7	1.5	1.8	2.1	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9
前逆	0.2	0.4	0	0.4	0.8	0.6	0.8	1.2	1.0	1.4	1.7	1.5	1.8	2.1	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9
後逆	0.2	0.4	0.2	0.4	0.8	0.8	0.8	1.2	1.2	1.2	1.2	1.5	1.6	1.6	1.9	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
逆立ち、前	0.4	0.5	0.5	0.4	1.2	1.3	1.3	1.5	1.7	1.7	1.9	2.1	2.1	2.1	2.3	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
逆立ち、後/前逆	0.4	0.5	0.5	0.5	1.2	1.3	1.3	1.3	1.3	1.7	1.7	1.9	2.1	2.1	2.3	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5

- (1) 半回転の宙返りで捻りを伴う演技は、伸型、鬆型、抱型の中から揃える。
- (2) 1回または1回転半の宙返りで捻りを伴う演技は、自由型で揃える。
- (3) 2回転以上の宙返りで捻りを伴う演技は、鬆型、抱型の中から揃える。
- (4) 逆立ち種目において1回、1回半または2回の宙返りで、1回またはそれ以上の捻りを伴う演技は、自由型を揃える。
- (5) 逆立ち種目において2回半またはそれ以上の宙返りで、捻りを伴う演技は、鬆型、抱型の中から揃える。

D 踏切 1. 前・後・前逆・後前

方向	前		後		前逆		後前	
	1/2 ~ 3 1/2	4 ~ 5 1/2	1/2 ~ 3	3 1/2 ~ 4 1/2	1/2 ~ 2	2 1/2 ~ 3	3 1/2 ~ 4 1/2	1/2 ~ 1
宙返り	0	0.5	0.2	0.5	0.3	0.4	0.6	0.6
5m	0	0.3	0.2	0.3	0.3	0.4	0.4	0.3
7.5m	0	0.3	0.2	0.3	0.3	0.4	0.4	0.3
10m	0	0.2	0.2	0.2	0.3	0.4	0.3	0.3

D 踏切 2. 逆立(捲りは除く)

方向	前		後		前逆	
	0 ~ 2	2 1/2 ~	0 ~ 1/2	1 ~ 4	0 ~ 1/2	1 ~ 4
宙返り	0.2	0.4	0.2	0.4	0.3	0.5
5m/7.5m/10m						

E 入水(捲りは除く)

宙返り	1		2		3		4		5	
	1/2	1 1/2	1 1/2	2 1/2	2 1/2	3 1/2	3 1/2	4 1/2	4 1/2	5 1/2
前 / 後前	-	0.1	-	0.2	-	0.2	-	0.0	-	-
後 / 前逆	0.1	-	0.2	-	0.3	-	0.4	-	0.4	0.0
逆立 後 / 前逆	-	0.1	-	0.2	-	0.2	-	0.3	-	-
逆立 前	0.1	-	0.2	-	0.3	-	0.4	-	0.4	0.0

Examples

演技番号	型	高さ	A	B	C	D	E	DD
307	B	10	2.7	0.3	0.0	0.3	0.4	3.7
307	C	10	2.7	0.0	0.0	0.3	0.4	3.4
5371	B	10	2.7	0.3	0.0	0.3	0.0	3.3
5257	B	10	2.1	0.3	1.5	0.2	0.0	4.1

演技番号	型	高さ	A	B	C	D	E	DD
309	B	10	3.5	0.6	0.0	0.3	0.4	4.8
309	C	10	3.5	0.3	0.0	0.3	0.4	4.5
5371	C	10	2.7	0.0	0.0	0.3	0.0	3.0
6247	D	10	1.9	0.0	2.1	0.0	0.0	4.0

難易度表
高飛込 (PLATFORM)

	10 METER				7.5 METER				5 METER					
	単 (STR)		腕 (PKE) 抱 (TUCK)		単 (STR)		腕 (PKE) 抱 (TUCK)		単 (STR)		腕 (PKE) 抱 (TUCK)			
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D		
飛板飛込														
第1群 前飛込														
101	前飛	Forward Group	1.6	1.5	1.4	-	1.6	1.5	1.4	-	1.4	1.3	1.2	-
102	前宙返り 1回	Forward Dive	1.8	1.7	1.6	-	1.7	1.6	1.5	-	1.6	1.5	1.4	-
103	前宙返り 1回半	Forward 1 Somersault	1.9	1.6	1.5	-	1.9	1.6	1.5	-	2.0	1.7	1.6	-
104	前宙返り 2回	Forward 2 Somersaults	2.5	2.2	2.1	-	2.4	2.1	2.0	-	2.6	2.3	2.2	-
105	前宙返り 2回半	Forward 2 1/2 Somersaults	2.7	2.3	2.1	-	-	2.4	2.2	-	-	2.6	2.4	-
106	前宙返り 3回	Forward 3 Somersaults	-	3.0	2.7	-	-	2.8	2.5	-	-	3.2	2.9	-
107	前宙返り 3回半	Forward 3 1/2 Somersaults	-	3.0	2.7	-	-	3.1	2.8	-	-	-	3.0	-
108	前宙返り 4回	Forward 4 Somersaults	-	4.2	3.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
109	前宙返り 4回半	Forward 4 1/2 Somersaults	-	4.1	3.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
110	前宙中宙返り	Forward Flying Somersault	-	4.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
111	前宙中宙返り 1回半	Forward Flying 1 1/2 Somersaults	-	1.9	1.8	-	-	1.8	1.7	-	-	1.7	1.6	-
112	前宙中宙返り 2回半	Forward Flying 2 1/2 Somersaults	-	1.8	1.7	-	-	1.8	1.7	-	-	1.9	1.8	-
113	前宙中宙返り 2回半	Forward Flying 2 1/2 Somersaults	-	2.4	2.3	-	-	2.3	2.2	-	-	2.5	2.4	-
114	前宙中宙返り 2回半	Forward Flying 2 1/2 Somersaults	-	2.6	2.4	-	-	-	2.5	-	-	-	-	-
115	前宙中宙返り 2回半	Forward Flying 2 1/2 Somersaults	-	2.6	2.4	-	-	-	2.5	-	-	-	-	-
第2群 後飛込														
201	後飛	Back Group	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
202	後宙返り 1回	Back Dive	1.9	1.8	1.7	-	1.9	1.8	1.7	-	1.7	1.6	1.5	-
203	後宙返り 1回半	Back Somersault	1.9	1.8	1.7	-	1.8	1.7	1.6	-	1.7	1.6	1.5	-
204	後宙返り 2回	Back 2 Somersaults	2.4	2.2	1.9	-	2.4	2.2	1.9	-	2.5	2.3	2.0	-
205	後宙返り 2回半	Back 2 1/2 Somersaults	2.6	2.4	2.1	-	2.5	2.3	2.0	-	-	2.5	2.2	-
206	後宙返り 3回	Back 3 Somersaults	3.3	2.9	2.7	-	-	3.0	2.8	-	-	3.2	2.9	-
207	後宙返り 3回半	Back 3 1/2 Somersaults	-	3.6	2.7	-	-	2.8	2.5	-	-	3.2	2.9	-
208	後宙返り 4回	Back 4 Somersaults	-	3.6	3.3	-	-	-	3.5	-	-	-	-	-
209	後宙返り 4回半	Back 4 1/2 Somersaults	-	4.1	3.8	-	-	4.2	3.9	-	-	4.4	4.1	-
210	後宙中宙返り	Back Flying Somersault	-	4.5	4.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
211	後宙中宙返り 1回半	Back Flying 1 1/2 Somersaults	-	1.9	1.8	-	-	1.8	1.7	-	-	1.7	1.6	-
212	後宙中宙返り 2回半	Back Flying 2 1/2 Somersaults	-	2.4	2.1	-	-	2.4	2.1	-	-	2.5	2.2	-
213	後宙中宙返り 2回半	Back Flying 2 1/2 Somersaults	-	3.2	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
第3群 前逆飛込														
301	前逆飛	Reverse Group	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
302	前逆宙返り 1回	Reverse Dive	2.0	1.9	1.8	-	2.0	1.9	1.8	-	1.8	1.7	1.6	-
303	前逆宙返り 1回半	Reverse 1 Somersault	2.0	1.9	1.8	-	1.9	1.8	1.7	-	1.8	1.7	1.6	-
304	前逆宙返り 2回	Reverse 2 Somersaults	2.6	2.3	2.0	-	2.6	2.3	2.0	-	2.7	2.4	2.1	-
305	前逆宙返り 2回半	Reverse 2 1/2 Somersaults	2.8	2.5	2.2	-	2.7	2.4	2.1	-	2.9	2.6	2.3	-
306	前逆宙返り 2回半	Reverse 2 1/2 Somersaults	3.4	3.0	2.8	-	3.5	3.1	2.9	-	-	3.3	3.1	-

306	前進宙返り 3回	-	3.2	2.9	-	-	-	3.0	2.7	-	-	3.4	3.1	-
307	前進宙返り 3回半	-	3.7	3.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
308	Reverse 3 Somersaults	-	4.4	4.1	-	-	-	4.5	4.2	-	-	-	-	-
309	Reverse 4 Somersaults	-	4.8	4.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
310	Reverse 4 1/2 Somersaults	-	5.0	4.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
312	前進宙返り 4回半	-	2.0	1.9	-	-	-	1.9	1.8	-	-	1.8	1.7	-
313	Reverse Flying 1 1/2 Somersaults	-	2.5	2.2	-	-	-	2.5	2.2	-	-	2.6	2.3	-

第4群 後跳切前飛込

		A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
401	Inward Group																
401	後跳切前飛	1.7	1.4	1.3	-	1.7	1.4	1.3	-	1.8	1.5	1.4	-	1.8	1.5	1.4	-
402	Inward Dive																
402	後跳切前宙返り 1回	1.9	1.6	1.5	-	1.8	1.5	1.4	-	2.0	1.7	1.6	-	2.0	1.7	1.6	-
403	Inward Somersault																
403	後跳切前宙返り 1回半	2.0	1.8	-	-	2.1	1.9	-	-	2.4	2.2	-	-	2.4	2.2	-	-
404	Inward 1 1/2 Somersaults																
404	後跳切前宙返り 2回	2.6	2.4	-	-	2.6	2.4	-	-	3.0	2.8	-	-	3.0	2.8	-	-
405	Inward 2 Somersaults																
405	後跳切前宙返り 2回半	2.8	2.5	-	-	3.0	2.7	-	-	3.4	3.1	-	-	3.4	3.1	-	-
406	Inward 3 Somersaults																
406	後跳切前宙返り 3回	3.5	3.2	-	-	3.4	3.1	-	-	4.0	3.7	-	-	4.0	3.7	-	-
407	Inward 3 1/2 Somersaults																
407	後跳切前宙返り 3回半	3.5	3.2	-	-	3.4	3.1	-	-	3.4	3.1	-	-	3.4	3.1	-	-
408	Inward 4 Somersaults																
408	後跳切前宙返り 4回	4.4	4.1	-	-	4.4	4.1	-	-	4.4	4.1	-	-	4.4	4.1	-	-
409	Inward 4 1/2 Somersaults																
409	後跳切前宙返り 4回半	4.4	4.1	-	-	4.4	4.1	-	-	4.4	4.1	-	-	4.4	4.1	-	-
412	Inward Flying Somersault																
412	後跳切前宙中宙返り	2.0	1.9	-	-	1.9	1.8	-	-	2.1	2.0	-	-	2.1	2.0	-	-
413	Inward Flying 1 1/2 Somersaults																
413	後跳切前宙中宙返り 1回半	2.5	2.3	-	-	2.6	2.4	-	-	2.9	2.7	-	-	2.9	2.7	-	-

		10 METER								7.5 METER								5 METER							
		A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
Twisting Group																									
5111	前飛 半回終り	2.0	1.9	1.8	-	2.0	1.9	1.8	-	2.0	1.9	1.8	-	1.8	1.7	1.6	-	1.8	1.7	1.6	-	1.8	1.7	1.6	-
5112	前飛 1回終り	2.2	2.1	-	-	2.2	2.1	-	-	2.2	2.1	-	-	2.0	1.9	-	-	2.0	1.9	-	-	2.0	1.9	-	-
5121	前宙返り 1回 半回終り	-	-	-	-	1.9	-	-	-	1.8	-	-	-	1.7	-	-	-	1.7	-	-	-	1.7	-	-	-
5122	前宙返り 1回 1回終り	-	-	-	-	2.1	-	-	-	2.0	-	-	-	1.9	-	-	-	1.9	-	-	-	1.9	-	-	-
5124	前宙返り 1回 2回終り	-	-	-	-	2.5	-	-	-	2.4	-	-	-	2.3	-	-	-	2.3	-	-	-	2.3	-	-	-
5131	前宙返り 1回半 半回終り	-	-	-	-	1.9	-	-	-	1.9	-	-	-	2.0	-	-	-	2.0	-	-	-	2.0	-	-	-
5132	前宙返り 1回半 1回終り	-	-	-	-	2.1	-	-	-	2.1	-	-	-	2.2	-	-	-	2.2	-	-	-	2.2	-	-	-
5134	前宙返り 1回半 2回終り	-	-	-	-	2.5	-	-	-	2.5	-	-	-	2.6	-	-	-	2.6	-	-	-	2.6	-	-	-
5136	前宙返り 1回半 3回終り	-	-	-	-	3.0	-	-	-	3.0	-	-	-	3.1	-	-	-	3.1	-	-	-	3.1	-	-	-
5138	前宙返り 1回半 4回終り	-	-	-	-	3.4	-	-	-	3.4	-	-	-	3.5	-	-	-	3.5	-	-	-	3.5	-	-	-
5152	前宙返り 2回半 半回終り	-	-	-	-	2.9	2.7	-	-	3.0	2.8	-	-	3.2	3.0	-	-	3.2	3.0	-	-	3.2	3.0	-	-
5154	前宙返り 2回半 1回終り	-	-	-	-	3.1	-	-	-	3.1	-	-	-	3.2	-	-	-	3.2	-	-	-	3.2	-	-	-
5156	前宙返り 2回半 2回終り	-	-	-	-	3.3	3.1	-	-	3.4	3.2	-	-	3.6	3.4	-	-	3.6	3.4	-	-	3.6	3.4	-	-
5172	前宙返り 3回半 1回終り	-	-	-	-	3.6	3.3	-	-	3.7	3.4	-	-	3.7	3.4	-	-	3.7	3.4	-	-	3.7	3.4	-	-
5211	後飛 半回終り	2.0	1.9	1.8	-	2.0	1.9	1.8	-	2.0	1.9	1.8	-	1.8	1.7	1.6	-	1.8	1.7	1.6	-	1.8	1.7	1.6	-
5212	後飛 1回終り	2.2	-	-	-	2.2	-	-	-	2.2	-	-	-	2.0	-	-	-	2.0	-	-	-	2.0	-	-	-
5221	後宙返り 1回 半回終り	-	-	-	-	1.9	-	-	-	1.8	-	-	-	1.7	-	-	-	1.7	-	-	-	1.7	-	-	-
5223	後宙返り 1回 1回終り	-	-	-	-	2.1	-	-	-	2.0	-	-	-	1.9	-	-	-	1.9	-	-	-	1.9	-	-	-
5223	後宙返り 1回 1回半終り	-	-	-	-	2.5	-	-	-	2.4	-	-	-	2.3	-	-	-	2.3	-	-	-	2.3	-	-	-
5235	後宙返り 1回 2回半終り	-	-	-	-	2.9	-	-	-	2.8	-	-	-	2.7	-	-	-	2.7	-	-	-	2.7	-	-	-

614	逆立ち前宙返り 2回			2.4	2.1								2.5	2.2		
616	逆立ち前宙返り 3回			3.3	3.1											
621	逆立ち後宙返り 半回	Armstand Back, ½ Somersault	1.9	1.8	1.6			1.9	1.8	1.6			1.7	1.6	1.4	
622	逆立ち後宙返り 1回	Armstand Back Somersault	2.3	2.2	2.0			2.2	2.1	1.9			2.1	2.0	1.8	
623	逆立ち後宙返り 1回半	Armstand Back 1½ Somersaults		2.2	1.9				2.2	1.9				2.3	2.0	
624	逆立ち後宙返り 2回	Armstand Back 2 Somersaults	3.0	2.8	2.5			2.9	2.7	2.4			3.1	2.9	2.6	
626	逆立ち後宙返り 3回	Armstand Back 3 Somersaults		3.9	3.3				3.3	3.1					3.5	
628	逆立ち後宙返り 4回	Armstand Back 4 Somersaults		4.7	4.5											
631	逆立ち前宙返り 半回	Armstand Reverse, ½ Somersault	2.0	1.9	1.7			2.0	1.9	1.7			1.8	1.7	1.5	
632	逆立ち前宙返り 1回	Armstand Reverse 1 Somersault		2.3	2.1				2.2	2.0				2.1	1.9	
633	逆立ち前宙返り 1回半	Armstand Reverse 1½ Soms.		2.3	2.0				2.3	2.0				2.4	2.1	
634	逆立ち前宙返り 2回	Armstand Reverse 2 Soms.		2.9	2.6				2.8	2.5				3.0	2.7	
636	逆立ち前宙返り 3回	Armstand Reverse 3 Soms.		3.6	3.4					3.2						
638	逆立ち前宙返り 4回	Armstand Reverse 4 Soms.		4.8	4.6											
6122	逆立ち前宙返り 1回 1回総り	Armstand Fwd Som. 1 Twist						2.6					2.5			2.4
6124	逆立ち前宙返り 1回 2回総り	Armstand Fwd Som. 2 Twists						2.9					2.8			2.7
6142	逆立ち前宙返り 2回 1回総り	Armstand Fwd 2 Soms. 1 Twist						3.1					3.0			3.2
6144	逆立ち前宙返り 2回 2回総り	Armstand Fwd 2 Soms. 2 Twists						3.4					3.3			3.5
6162	逆立ち前宙返り 3回 1回総り	Armstand Fwd 3 Soms. 1 Twist						3.9								
6221	逆立ち後宙返り 1回 半回総り	Armstand Back Som. ½ Twist						1.8					1.7			1.6
6241	逆立ち後宙返り 2回 半回総り	Armstand Back 2 Soms. ½ Twist						2.4					2.6	2.3		2.5
6243	逆立ち後宙返り 2回 1回半総り	Armstand Back 2 Soms 1½ Twists						3.2					3.1			3.3
6245	逆立ち後宙返り 2回 2回半総り	Armstand Back 2 Soms 2½ Twists						3.6					3.5			3.7
6247	逆立ち後宙返り 2回 3回半総り	Armstand Back 2 Soms 3½ Twists						4.0								
6261	逆立ち後宙返り 3回 半回総り	Armstand Back 3 Soms. ½ Twist						3.3					3.3	3.1		3.5
6263	逆立ち後宙返り 3回 1回半総り	Armstand Back 3 Soms 1½ Twists						4.2					4.2	4.0		
6265	逆立ち後宙返り 3回 2回半総り	Armstand Back 3 Soms 2½ Twists						4.7					4.7	4.4		

参考图



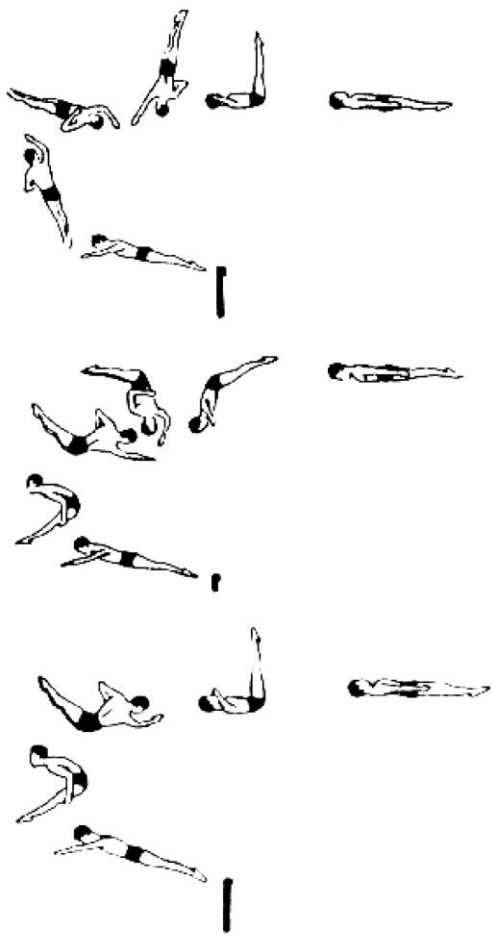
5152 (d)



5211 (a)



5212 (a)



5223 (c)

5222 (c)

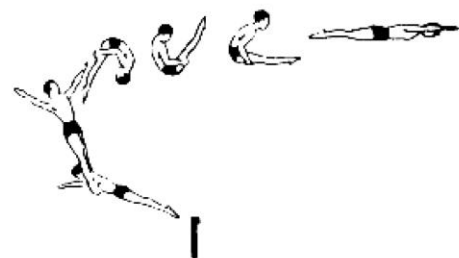
5221 (d)



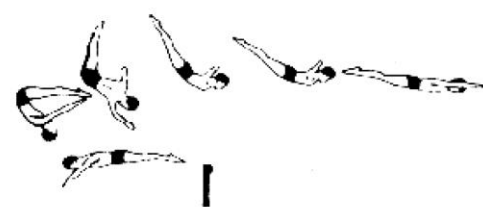
5331 (d)



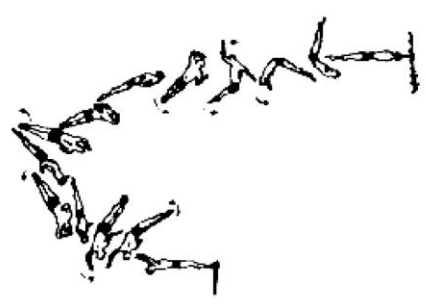
5233 (d)



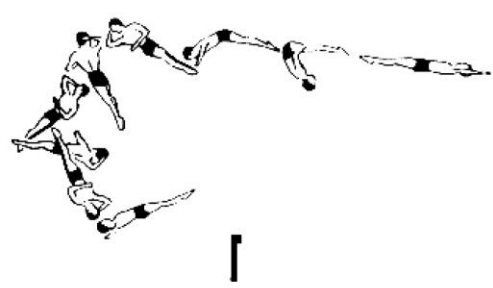
5231 (d)



5411 (b)



5335 (d)



5333 (d)



5412 (a)

5421 (b)

5422 (d)



5432 (d)

競技役員（飛込）の手引き

(公財) 日本水泳連盟 競技役員(飛込)の手引き

はじめに

この手引は、公益財団法人日本水泳連盟(以下「本連盟」という)の制定した飛込競技規則(以下「競技規則」という)の理解を深め、飛込競技ならびに飛込競技会の運営が円滑に行われるために作成したものである。

本連盟公認競技役員(以下「競技役員」という)および公認競技役員資格の取得希望者を対象としているが、競技者ならびに飛込競技会開催に関するその他の関係者にとっても参考となるように企図した。

適用対象は、本連盟または加盟団体が主催する「公式競技会」、本連盟または加盟団体が公認する「公認競技会」であるが、その他の飛込競技会においても準用または活用されることを期待する。

以下、本手引においては、特に指定の無い限り、飛込競技会のすべてを「競技会」という。

1. 飛込競技概要

水泳競技には、競泳・水球・飛込・アーティスティックスイミング・オープンウォーター(マラソンスイミング)・そしてハイダイビングの6種類の競技がある。その内の一つである飛込競技は近代オリンピック発祥の後、1904年には正式競技として採用され、1928年にはすでに現在に近い競技形態が整った。当初は華麗さを競う優雅な競技であったが、競技用具とトレーニング方法の進歩により、現在では非常に高度な技術をともなった演技が行われるエキサイティングな競技になっている。

競技会運営の細部に入る前に、競技会では、どのような方法で、どのような演技が行われるのかを簡単に説明する。

(1) 競技種目について

飛込競技には男子・女子それぞれに次の競技種目がある。

①個人競技

a. 高飛込競技

高さ 5 m・7.5 m・10 m の固定台 (PLATFORM) から演技が行われる。

b. 3 m 飛板飛込競技

高さ 3 m の飛板 (SPRINGBOARD) から演技が行われる。その板の材質は非常に弾力性に富んだ軽合金 (ジュラルミン) が用いられている。

c. 1 m 飛板飛込競技

高さ 1 m の飛板から演技が行われる。

② シンクロナイズドダイビング競技

2 名 1 組の競技者により演技が同時に行なわれる。個々の競技者の演技の完成度に加え、両競技者の同調性が取れているかが判定される。男子・女子それぞれの組み合わせのほか、男女混合 (Mix) も行なわれる。

a. シンクロナイズドダイビング 10 m 高飛込競技

高さ 10 m の固定台の左右から演技が行われる。

b. シンクロナイズドダイビング 3 m 飛板飛込競技

高さ 3 m の 2 枚平行に並んだ飛板から演技が行われる。

③ ミックスチームイベント競技

- ・ミックスチームイベントは、少なくとも男子 1 名・女子 1 名の競技者で構成され、4 名以下とする。
- ・6 つの群から選択した 6 演技種目で構成され、難易度の制限はない。
- ・2 演技種目は女子選手が、2 演技種目は男子選手が行い、2 演技は男女 1 組のミックスシンクロナイズドチームによって行われる。また、3 演技種目は 3 m 飛板から、残りの 3 演技種目は 10 m 固定台から行う。

(2) 演技種目について

競技会で演じられる演技種目は 3 桁もしくは 4 桁の数字と 1 文字のアルファベット (A~D) により表される。詳細は競技規則第 1 条 5 項から 6 項を参照。

(3) 得点について

① 個人競技及び、ミックスチームイベント競技

演技に対する採点は 7 名、もしくは 5 名のジャッジにより行われる。各ジャッジの主観によりそれぞれ 0 点か

ら10点まで0.5点刻みで採点を行う。詳細は競技規則第7条4項を参照。

②シンクロナイズドダイビング競技

11人ジャッジ制では、演技の完成度を採点するエクスキューションジャッジ (judged by the execution) 6名が3名ずつに分かれ、一人一人の競技者を担当する。両競技者の演技の同調性を採点するシンクロナイゼーションジャッジ (judged by the synchronization) は5名。以上合計11名のジャッジが0点から10点までの0.5点刻みで採点を行う。9人ジャッジ制では、演技の完成度を採点するエクスキューションジャッジ4名が2名ずつに分かれ、一人一人の競技者を担当する。両競技者の演技の同調性を採点するシンクロナイゼーションジャッジは5名。以上合計9名のジャッジが0点から10点までの0.5点刻みで採点を行う。詳細は競技規則第7条5項を参照。

(4) 演技構成について

競技会では基本的(ジュニアの部では演技回数が異なる)に次のような演技構成と演技回数で競技が行われる。詳細は競技規則第3条を参照。

	演技種目	難易度2.0	自由選択飛	合計
個人競技	男子	—	6	6
	女子	—	5	5
シンクロナイズド競技	男子	2	4	6
	女子	2	3	5
	Mix	2	3	5
ミックスチームイベント	男女	—	6	6

2. 公式競技会・公認競技会

公式競技会および公認競技会は、それぞれ以下の要件を満たさなければならない。

(1) 競技会の公表

①日程の発表

本連盟では、公式競技会ならびに公認競技会の大綱（競技会名・開催期日・会場等）を3月末日までに公表する。その公表日程にあわせて、公式競技会ならびに公認競技会を主催する加盟団体ならびにその他の主催者は、本連盟に次の届出もしくは申請をしなければならない。

a. 公式競技会の届出

公式競技会を主催する加盟団体は4月1日より翌年3月末日までに実施しようとする公式競技会の日程を2月末日までに本連盟に届出ること。

b. 公認競技会の申請

公認を受けようとする競技会的主催者は、4月1日より翌年3月末日までに実施しようとする競技会の日程を一括して、1月末日までに加盟団体に対して申請（競技の内容・参加資格等を明記）すること。申請を受理した加盟団体は、公認に先立ち2月末日までに本連盟の承認を受けること。

c. 国際的な競技会の申請

各国から招聘した競技者が参加する競技会等の主催者は、競技会の公認申請（前項b.に同じ）を本連盟または加盟団体にすること。申請を受理した加盟団体は、本連盟を通じ出場する外国人競技者の競技者資格の確認を行うこと。

②開催要項の発表

公式競技会・公認競技会の開催要項は、競技会初日の3週間前までに公表すること。

(2) 出場資格の限定

公式競技会・公認競技会に出場できる者は、本連盟に競技者登録をした者および本連盟が招聘した外国人競技者に限られる。国際的な競技会に出場できる外国人は、World Aquatics加盟国の国籍を有し、当該国の競技者資格が確認された者に限られる。なお、小、中学校関係競技会の参加者については競技者登録の有無を条件としないが、競技者登録をするよう推奨する。

(3) 競技役員編成

公式競技会・公認競技会の競技役員は本連盟の公認競技役員によって編成しなければならない。なお、公認競技役員が不足

する場合は、レフリー、ジャッジならびに各役職の主任以外に限り、補助役員をもって充てることができる。

- ①公認競技会においては、公認した本連盟もしくは加盟団体より、2名以上の大会総務の派遣を受けなければならない。

(4) 施設の条件

公式競技会・公認競技会においては、本連盟の公認プールを使用しなければならない。また、そのプールのコンディションは競技会の期間（公式練習日の2日間を含む）を通じて次の条件を満たしていなければならない。

- ① 静水であること。
- ② 水温は28℃以上であること。
- ③ 水位は定められた高さが常に一定に保たれていること。
- ④ 発泡装置または散水装置により水面攪拌が常に一定に行われること。
- ⑤ 照明は競技会の期間を通じて常に一定の照度であること。

3. 競技会の名称制限

加盟団体および主催する団体が、競技会の名称を決定するに際して、以下の場合、事前に加盟団体を通して本連盟の承認を得なければならない。

- (1) 「全日本」「日本」「全国」等、我国を代表する意味を持つ語句を競技会の名称に冠す場合。
- (2) 商標（ロゴ）・商標名等を競技会の名称に冠する場合。

4. 競技者の出場制限

すべての競技者は本連盟の定める「競技者資格規定」を遵守しなければならない。

- (1) 公式競技会に出場するために、予選競技会通過が義務づけられている場合は、所定の予選競技会を経なければならない。ただし、つぎの場合はその限りではない。
 - ①前年度の日本選手権獲得者が、日本選手権水泳競技大会に出場の申し込みを行う場合。

- ②我が国を代表して、オリンピック大会等の国際競技会に派遣されるため、予選競技会に出場出来ない場合。
- (2) 公式競技会・公認競技会以外の競技会に出場する場合は、加盟団体の承認を得なければならない。
- 競技者は当該競技会開催日の7日以前までに所属する登録団体と主催する団体の連署した文書を以て加盟団体に届出て承認申請を行う。ただし以下の競技会には適用しない。
- ①学校または大学相互の親善競技会。
- ②登録団体（加盟団体が所属登録をした団体）が所属する競技者を対象に主催する競技会。
- ③地方公共団体が主催する地域住民を対象とする競技会。
- (3) 競技会開催要項に、年齢・校種・居住地等についての出場資格が明示されている場合、その資格条件を満たさなければならない。また、出場の為の標準点数が設定されている場合、それ以上の得点を指定された競技会で獲得しなければならない。

5. 競技会参加にかかわる罰則

本連盟に登録した競技者は、規則を遵守しフェアプレイを展開すること、全力で自己演技の向上に尽くすことを競技会参加の根本理念におかななければならない。競技者が次の禁止された行為に反した場合、本連盟はそれぞれ罰則を適用させる。

- (1) 競技者は、ドーピング規則に規定されている薬物を用いてはならない。違反があった場合、その競技者（またはチーム）の記録を抹消の上、処罰する。
- (2) 競技者は、意図的に自己の競技能力を低下させてはならない。本連盟が、作為により自己の競技能力を低下させたと認めた場合、競技者資格を停止させることがある。
- (3) 競技者は、傷病または不測の事態等の正当な理由なく競技会出場権を放棄してはならない。競技会要項に棄権料納入の定めがある場合、決勝・準決勝を問わず、出場権を放棄した競技者に対し、罰則として、放棄種目ごとに所定の棄権料納入を課す。この場合、所属団体は、棄権競技者（またはチーム）に棄権料を納入させる責任を負う。ただし、競技会の期間

内(公式練習日含む)に競技会場内で被った負傷による場合に限り適用しない。

- (4) 競技者は、本連盟の定める「競泳競技会において着用、または携行することができる水泳用品、用具の商業ロゴ等についての取り扱い規定」に違反する物品を着用・携行して宣伝・広告の媒体となってはならない。違反があった場合、出場を停止させることがある。

6. 競技会の報告義務

加盟団体は競技会終了後10日以内に、記録その他必要事項を文書によって本連盟に報告しなければならない。なお、加盟団体が主催しない競技会(公認競技会)にあつては、その主催者が加盟団体を通じて同様の措置をとらなければならない。報告にあつては下記の書面を送付すること。リザルトシステムを使用した場合、(2)～(4)は電子ファイルに変えること。

- (1) 競技会要項
- (2) 飛込競技計算用紙A {Detail Result}
- (3) 飛込競技記録報告用紙 {Summary Result}
- (4) 飛込競技成績表 {Total Ranking Result}
- (5) 団体得点プログラム(白紙)

7. 競技役員の役割と心得

- (1) 競技役員資格は、本連盟の公認競技役員資格規定に基づいて運用される。
- (2) 競技役員が競技会に関与する目的は、自己の心身向上のため、および社会発展のためのスポーツに貢献することにあつて、それ以外のなにもものでもないことに留意しなければならない。
- (3) 競技役員は、競技会運営にあたり、公平かつ厳正な態度を堅持しなければならない。そのため、特に次の事項に留意すること。
 - ① 競技規則および競技運営に精通し、自信と責任を持った判断が必要である。

- ②競技会の規則に基づく平等の原則に立ち、私情を厳しく排除して沈着冷静に行動すること。
 - ③多数の観客ならびに競技者が注目していることを自覚し、自己の服装・態度について十分な配慮をすること。
 - ④競技会運営は組織的におこなわれる。いかなる役職も重要な役割を担い、相互の連携が不可欠であることを認識すること。また各役職相応の権限を尊重し、その権限に基づく指示・決定事項を遵守すること。
- (4) 競技役員には、水泳の普及発展と同時に、競技者の心身ともに健全な向上発展に寄与するため、指導的役割が期待される。次の事項について鋭意努力しなければならない。
- ①競技場の内外を問わず、競技者の動向に気を配り、社会の一員としてふさわしい行動をとるよう注意・指導に努めること。
 - ②競技会に参加する競技者に、会場利用方法、競技会参加方法等の順守事項について指導・監督すること。
 - ③競技者の資格が他から侵されることのないように保護すること。
 - ④たとえ幼少の競技者であっても、その人格を尊重し、受容的な態度で接すること。
- (5) 競技会に参加する競技役員の行動は、以下を基本とする。
- ①集合
 - a. 競技開始1時間前に所定の場所に集合して、レフリー及び各役職の主任の指示を受ける。
 - b. 競技開始前に準備を要する競技役員と開会式の担当者は、さらに、その準備に必要な時間だけ早く集合すること。
 - c. ダイブシートの受付、処理等の業務を担当する競技役員は、競技開始日の前日に集合すること。
 - ②指示および伝達
 - a. レフリーは、大会総務・実行委員と共に、競技会の開始に先だち、主任・副主任を集めて、競技会の運営について必要な指示・伝達を与えること。（この打合せ会を主任会議という）
 - b. レフリーは、全競技役員を集め、競技会の目的や特色、留意事項等を伝える。（この会を全体会議という）
 - c. レフリーは、出欠を確認し、過不足に対応した再編成

等の指示をする。

- d. 主任は担当の競技役員を集め、役割・配置等の必要事項について指示する。

③待機

競技役員は、直接その任務に従事しない時は所定の場所で待機する。待機中は次のことに留意する。

- a. 飲食は指定の場所で行うこと。
- b. 定められた役員席を離れるときは、必ず主任に連絡し、その了承を得ること。
- c. 役職上必要な場合を除き、観覧席・選手席に立入ってはならない。

④行動

競技役員は規律正しく、機敏に行動するよう努めること。

a. 用具管理

競技役員は、競技用具の使用に際し、事前に点検・確認を行うとともに、その管理についても万全を期するように努めること。

b. 相互の連絡

役員相互の意志伝達は迅速かつ的確に行うことが望ましい。

c. 勤務の交代

競技会が長時間にわたる場合や、多くの競技種目が短期間に集中して行われる場合、競技役員は交代で勤務することが望ましい。

⑤他の競技役員との連携

任務の異なる競技役員との間で要望または依頼をする場合は、必ず主任の了承を得た上、その指示によって行うこと。（役員相互の気易さから個人で行うと、かえって業務を混乱させ、トラブルのもとになる）

⑥配慮すべき事項

- a. 競技役員は、競技者の競技意欲を盛り上げるため、高得点の演技や、入賞者の表彰においては、率先して拍手をおくるなどの努力をすること。
- b. 競技役員は、競技者・観客・関係者の不審な動向や、

異常な事態に気付いたときには、主任または大会総務に報告する。

(6) 競技役員の服装と携行品

- ①競技役員は、本連盟が制定したユニホームおよび加盟団体が制定した服装（シャツ・ズボン・ネームプレート）を着用すること。シューズに関しては、制定品は無いが白色でプール専用の物を使用すること。
- ②競技役員は、本連盟の定める「競泳競技会において着用、または携行することができる水泳用品、用具の商業ロゴ等についての取り扱い規定」に違反する様な所持品をアリーナ内に持ち込んではならない。私物の携行は最小限に留めること。
- ③競技役員は開催期間中、本連盟が交付した競技役員手帳を所持し就任の証明を受けること。

(7) 委嘱された任務を正等な理由なしに怠ったり、必要な競技役員研修会に出席しなかったりしたとき、また競技役員としてふさわしくない言動や行為を行ったときは、競技役員資格を取り消されることがある。

8. 競技役員の構成と配置

(1) 構成

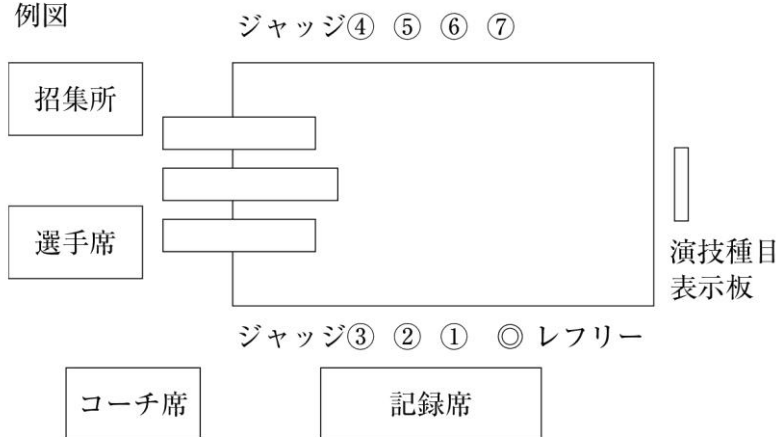
- ①競技会を運営するため、最小限の競技役員として次の役職と人数をおく。「主要競技会」はリザルトシステムを使用し、バックアップを手計算で行うこと前提とした人数である。シンクロナイズドダイビング競技が行われる場合、ジャッジは11名または9名となる。

役職名	主要競技会	その他
レフリー	1	1
アシスタントレフリー	1	-
ジャッジ	7 (5)・Sync11 (9)	7 (5)
進行主任	1	-
記録員	6	11
通告員	1	2
招集員	1	1

- ②他競技（競泳等）と同時に競技を行う場合は、競技役員長をおくことができる。
- ③競技会の規模を考慮し、上記役職の他に、必要な業務を担当する役職（式典・速報・報道・救護・その他）を設けること。
- ④役職の兼務は特に差し支えない。

(2) 配置

例図



レフリー席： 競技のすべてが見わたせ、記録席との連絡が取りやすいところ。

ジャッジ席： 座面高2.0m以上の椅子をタワーの両サイドに、

配置する。プールの構造上両サイドへの配置が不可能な場合やジャッジの視覚的に問題がある場合は片側でも可とする。その際には後を高くすること。その場合は前の椅子より0.5mずつ高くすること。なお、各席には席番を表示する。飛込台から見て、右側奥を1番とし、順次時計回りに付ける。

記 録 席：記録本部を兼ねる場合もあるので、特に留意して配置する必要がある。観客席とアリーナの関係、ジャッジ席・通告員席との関係をも考慮に入れて配置する。

9. 競技会運営委員会（実行委員会）

本連盟または競技会の主管団体より指名された委員で構成し、競技会を円滑に運営するため、各競技役員の任務以外の事項について協議し、方針を定め、競技会前の準備を行う。当該競技会のレフリーも構成員であることが望ましい。

競技会開催中は競技会関係者に対し、競技会運営方法に関する指示、連絡等を行う。

（1）任務

①競技

大会役員・競技役員の委嘱、編成
補助役員の任命、編成
競技運営の企画
開閉会式および表彰等の式典関係の企画、準備
出場者の申込受付
プログラム、タイムテーブルの作成
監督者会議、競技役員会議の開催

②施設

競技会場の確保、使用方法の検討
使用機器、用具の準備

③渉外

主催団体、主管団体、後援団体、賛助団体との連携
警備・消防関係、県・市町村・教育委員会との連携

その他の協力団体との折衝
医療機関、報道関係との打ち合わせ

④庶務

予算を含めた経理計画
宿泊・輸送・食事・駐車場の手配
記録速報の発行体制
役員関連の庶務

(2) プログラム編成基本

プログラム編成を行う場合、以下を基本とする。

①競技開始時間

- a. 第1試合の開始時間は9:00以降とし、開門から1時間以降後（式典の時間を除く）を基本とする。また時間的制約のある場合でも8:30以前に開始してはならない。
- b. 各競技種目の開始時間は30分単位の区切りの良い時間とすることが望ましいが、時間的制約のある場合には10分間単位とする。
- c. 選手紹介式を競技直前に行う場合、開始時間とは選手の入場時間とすることが望ましい。

②タイムテーブル

- a. 一演技の時間計算は1 m飛板飛込競技で48秒、3 m飛板飛込競技で50秒、高飛込競技は52秒で計算し、参加人数8名以下の決勝競技種目では60秒で計算する。直接入力リザルトシステムを使用し、演技情報がすべて表示される場合、予選競技に限り通告を選手の名前のみとし、1 m飛板飛込競技で40秒、3 m飛板飛込競技で42秒、高飛込競技は44秒とする。
- b. 競技間のインターバルは30分間以上（式典の時間を除く）を基本とする。ただし準決勝方式の場合に限り、予選と準決勝の間は30分間以下でも良い。午前と午後の競技間のインターバルはできるだけ長く取ること。
- c. 演技数210以上の場合、競技を前半と後半に分けて行う。ラウンドの数は前半を3演技とする。ジャッジが2パネル制の場合には、演技数に関らず、途中休憩を行わなくても良い。

③競技順の決定

- a. 締切り後、主催団体より選任された立会人のもと、公開抽選によって行う。
- b. 競技会実績により出場権が与えられる競技会は実績の昇順とする。
- c. 国際競技大会では監督者会議において、公開抽選により行う。

④競技順序

- a. 最終競技種目は基本的に男子高飛込競技決勝とする。
- b. 会場が屋外で競技終了が日没の1時間前を過ぎると予想される時、照明の有無に拘らず、その日の最終競技種目は飛板飛込とする。

⑤他競技との同時開催

- a. 同一会場で他競技（競泳等）が行われる場合、決勝の同時進行は避けることが望ましい。しかし時間的制約等で同時進行する場合には他競技の実行委員と事前に打ち合わせを行う。（合図音の変更、音響設備の分離、選手役員導線の分離設定等）
- b. 他競技（競泳等）の式典との同時進行は、競泳の毎レース表彰の場合を除き、避けるようにすることが望ましい。

⑥練習

- a. 会場は練習のために少なくとも大会2日以前から使用可能にすること。（公式練習日）
- b. 練習時間にチーム割当等の制約は設けないことが望ましい。
- c. 競技開始30分前からは当該競技種目の飛込台での練習は出場選手のみとするのが望ましい。
- d. 同一会場で他競技の決勝が行われている場合の練習は避けることが望ましい。特に飛込競技が終了している場合には練習は行わないようにすること。
- e. 式典の最中は練習のために選手を飛込台に上げてはならない。

⑦変更

プログラムが公表された後でタイムテーブルを変更する場合、遅れる際はそのむねを通告と掲示により通達すれば良いが、早めることは極力避けるべきである。もしも早めなければならない場合、監督者会議において書面によ

り変更通知を行うことが望ましい。

10. 大会総務

大会総務は、競技規則をはじめとする他の諸規則にのっとり、かつ、実行委員会の指示に従って、競技会が公正、かつ円滑に行われるよう、競技会全般にわたって必要とする業務を行う。

実行委員会の委員長も、構成員であることが望ましい。

主として次の業務を行う。

- (1) 文書でなされた抗議に対する裁定
- (2) 競技者資格の審議
- (3) 競技者に罰則適用の審議
- (4) 競技会施設、設備、機器の点検、指示
- (5) 競技規則の遵守状況の点検、指示
- (6) 不足の事態発生の際、その対応の決定
- (7) 競技の進行を統括するミートディレクターの任命

11. 競技役員の仕事と権限

(1) 競技役員長

① 仕事

実行委員会の決定事項に基づいた指示を与え、ともに各競技間の連絡調整を行う。

役員長は、異なる水泳競技が同一大会として開催される総合競技会等においてのみおかれる。

② 権限

各水泳競技会の運営を統括する。

③ 編成

役員長は全競技会を通じ1名とする。

(2) レフリー

① 仕事

本連盟の競技規則を完全に施行する。そのために競技規則第6条に規定される職務の他、次の仕事を行う。

- a. 競技役員各主任を任命し、職務の分担および指示

- を与える。
- b. 競技者の水泳着や衣服、持ち物が本連盟の定める「競泳競技会において着用、または携行することができる水泳用品、用具の商業ロゴ等についての取り扱い規定」に違反する場合、その使用を禁止させる。
 - c. 競技進行主任がおかれる競技会の場合、レフリーはジャッジ業務を、競技進行主任は競技の進行に関する諸業務を担当するが、事前に分担を打ち合わせておくこと。
 - d. 予選終了後に、種目変更に伴う決勝ダイブシート提出時刻（競技終了後30分間）を決定し、通告させる。

②権限

- a. 競技の運営に関し、競技者および競技役員・補助役員を統轄する。
- b. 競技の運営に関するすべての事柄について、最終決定を下す。
- c. 必要に応じて競技役員の補充や交代を任命することが出来る。
- d. 競技規則に違反の疑いのある時は、いずれの段階においても競技に介入し、最終決定を下す。競技規則に定めのないような事柄についても同様である。

③編成

公式競技会・公認競技会のレフリーならびにアシスタントレフリーは、本連盟飛込競技公認審判の有資格者で編成されなければならない。（飛込競技公認審判員資格規定第3条に従うこと）

- a. レフリーは1名とする。
- b. アシスタントレフリー1名もしくは2名をおくことができる。アシスタントレフリーはレフリーの指示により
〈固定台の上の競技者の演技の監察〉〈シンクロナイズドダイビング競技においてはレフリーと反対側に配置し、もう片方の演技者の観察〉等の任務を行う。

④配置

競技全体が見わたせ、記録席との連絡が取りやすい場

所に位置する。なお、競技の進行にともない必要に応じて移動して任務しても差し支えない。

リザルトシステムを使用する場合にはモニターを設置する。

⑤手順

a. 競技者または監督者に対して監督者会議等を通じて、競技運営についての注意・連絡事項等を説明しトラブルを未然に防ぐ努力をすること。

監督者会議の内容としては、実行委員会による連絡・説明の他に、競技の進行・招集の要領・練習方法・プログラムの訂正等が考えられる。

b. 競技運営の機能を十分考慮し、競技場内の設営、競技用具および競技役員の配置場所等を点検・確認すること。特にプールコンディション（気温・室温・水温・水位）、施設（固定台・飛板）、設備（水面攪拌装置・リザルトシステム・照明・音響）を点検、確認すること。

c. 各競技役員の主任を招集し、各主任への指示を伝達すると共に、各主任から競技役員への指示事項を確認すること。競技会当日にあつては、まず、全競技役員の出席状況を把握し、必要な処置をとる。競技役員が不足する場合には、必要に応じ、主任を通じて各役職の兼務を指示・任命する。

d. ジャッジミーティングの開催

i. 第1試合開始1時間前に全ジャッジを招集し、競技規則及び採点等の留意事項について指示伝達をする、とともに出席状況を確認し各競技種目の担当ジャッジを任命する。

ii. 各競技終了時に全ジャッジを招集し、その競技における採点内容について、考課ならびに指示伝達を行う。

e. 競技中にあつては競技規則第6条「レフリー」に従い、その任務を完全に遂行する。

⑥留意事項

a. レフリーは、競技の運営のみならず競技会全般にわたり、規則以外にも広く豊富な知識と見識を兼ね備える者が当た

ることが望ましい。そのためレフリーの人選については、競技運営委員会で、十分検討する必要がある。決して、名目上の役職であってはならない。

- b. 競技会の開催に当たっては競技会運営の円滑化を図るために、自らが事前に準備状況等を確認し、対処しておくことが必要である。
- c. 競技者が、競技会で最高の成績をおさめることができるよう、競技会の雰囲気づくりについても常に工夫・改善する努力が必要である。

(3) ジャッジ

①任務

競技規則第8条「採点方法」に従い、演技の採点を行う。

②編成

公式競技会・公認競技会のジャッジは、本連盟飛込競技公認審判員の有資格者で編成されなければならない。(飛込競技公認審判員資格規定第3条に従うこと)

a. 個人競技種目およびミックスチームイベント競技

本連盟主催の競技会では7名(5)1組で編成される。その他の競技会においては5名1組の編成としても良い。

b. シンクロナイズドダイビング競技

11人制ジャッジは、エクスキュージョンジャッジ(E1～E6)6名は、E1・E2・E3の3名がAサイドを、E4・E5・E6の3名がBサイドの競技者を担当する。Aサイドとは飛込台からみて右側を示す。シンクロナイズーションジャッジ(S1～S5)は5名。以上、合計11名1組で編成される。

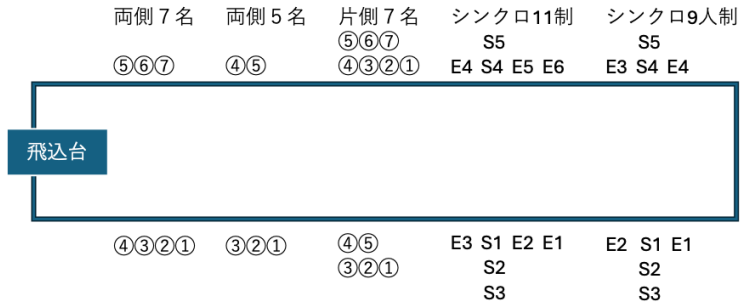
また9人制ジャッジは、エクスキュージョンジャッジ(E1～E4)4名は、E1・E2の2名がAサイドを、E3・E4の2名がBサイドの競技者を担当する。Aサイドとは飛込台からみて右側を示す。シンクロナイズーションジャッジ(S1～S5)は5名。以上、合計9名1組で編成される。

- c. 競技会の規模により交代のための要員をおくこと。可能であれば2パネル制が望ましい。

③配置

ジャッジは飛込台を挟み両側に振り分けて配置する。
 ジャッジに視覚的問題が生じる場合には片側としても良い。
 番号は飛込台から見て、右側奥を1番とし、順次時計回りに付ける。

例図（レフリーの位置により、7名の際は・を、5名の際は・を反対側に移動しても可）



④手順

- a. 第1競技開始の1時間前に開かれるジャッジミーティングに出席し、担当競技種目の任命を受ける。
- b. 通告員のアナウンスによりジャッジは指定された席に着く。
- c. 開始直前にジャッジテストを行い、入力確認する。これはシステム接続系統の確認も兼ねるものである。
 （ジャッジはジャッジ番号を入力すること）
- d. 演技が実行された後、互いに相談することなく直ちに、かつ同時にその演技に対する採点を定められた方法で提示する。
- e. 各競技終了後ただちに開かれる、ジャッジミーティングに出席する。

⑤留意事項

- a. ジャッジは競技者の演技に対し、独自の判断のもとに採点されるものであることから、特に公正さと、すぐ

れたジャッジ技術が要求される。したがって各ジャッジは、心身ともに健全な体力の維持に努め、誤った判断を起こさないよう留意すべきである。

- b. ジャッジは演技を採点する際には、技術と実行以外のいかなる要素にも影響されてはならない。
- c. 競技中はジャッジとしてふさわしい態度で臨むこと。
 - i. 正しい姿勢を保ち、定められた服装を身につける。
 - ii. ジャッジ相互の私語を慎む。

(4) 競技進行主任

競技会の規模や状況に応じて、競技の進行を統括する競技進行主任をおくことが出来る。主要競技会では競技進行主任をおくこと。

①任務

- a. 競技会の円滑な運営と進行を計画し、遂行する。
- b. レフリーはジャッジ業務を、競技進行主任は競技の進行に関する諸業務を担当するが、事前に分担を打ち合わせておくこと。

②編成

競技進行主任は1名とする。

③配置

レフリー・通告員・記録主任との連携が保てる位置とする。

④手順

- a. 実行委員会により決定されたプログラムに基づき、各部署の業務内容とその時間割（タイム&タスク）を事前に作成し、すべての競技役員に対し、周知徹底を図る。
- b. 隣接しない各担当者との連絡はトランシーバーにより、確保すること。
- c. 招集・通告・機械操作・音響・表示装置等の各担当者に業務開始のタイミングを出す。
- d. 競技開始前に各担当者の業務遂行と配置の確認を行い、レフリーに開始準備完了の合図を送る。

⑤留意点

競技会の計画段階から運営に参加し、会場全体の雰囲気作り

について企画し、実施すること（表示装置の表示内容、音響楽曲の選定、通告内容等）。またTV中継が行われる場合には、タイミングについて綿密な打合せをTV局側と事前に行い、便宜を図ること。

(5) 記録員

①任務

- a. 競技規則第7条「記録本部」に従い、記録事務を迅速・確実に行い、競技記録を完全に管理する。
- b. 記録員は、競技開始前に「ダイブシート」の点検をし、「記録報告用紙」（スタートリスト）にあらかじめ必要事項を記入しておく。また、点検中に競技規則上の違反を発見した場合は、ただちに主任を通じレフリーに報告する。
- c. 各競技終了後、「計算用紙」「記録報告用紙」をレフリーと共に精査し、「記録報告用紙」に署名をもらう。

②編成

- a. 1名を記録主任とする。
- b. 次の人数は1競技のための最小単位である。それぞれ交代のための要員（2組によるローテーションが望ましい）と、リザルトシステムのバックアップのための要員（手計算の場合と同人数）をおくこと。

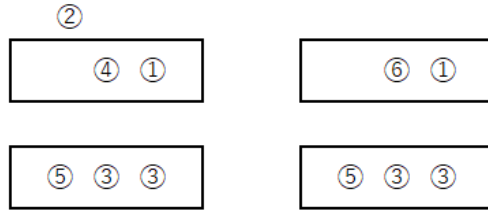
メイン バックアップ	リザルトシステム		手計算
	手計算	リザルトシステム	
計算係	2	0	2
記録係	1	1	1
早見表係	0	0	1
機械操作係	1	2	0
種目表示係	0	0	2
速報係	1	1	1
合計	5	4	7

例図

手計算の場合

システム使用の場合

- ①通 告 員
- ②採点通告係
- ③計 算 係
- ④早見表係
- ⑤記 録 係
- ⑥機械操作係



③配置

記録席は記録本部となることもある場所なので、会場施設の状況をよく見極めた上、レフリーとの連携が必要なので、運営上もっとも適切な場所に位置すること。

④手順

a 競技前日の準備

- i. プールサイドの分かりやすい場所（記録席周辺）に「ダイブシート投函箱」を設置する。

（注）「ダイブシート」は特に競技会要項に定めがない限り、当該競技の予選競技開始24時間前に競技会記録本部まで提出しなければならない。（大会により異なる時間の場合があるので注意すること）

- ii. 定められた時間内に提出された「ダイブシート」を競技規則に適合しているかいないかを点検し、その結果をレフリーに報告する。

（注）記載が競技規則に不適合の場合、レフリーの指示により競技者本人または監督コーチに訂正をさせる。（ただし難易度は、種目を優先として修正を行うことができる。）

所属名の記載がプログラムと異なる場合、プログラムの記載が優先される。しかし主任に報告の上、訂正すること。

- iii. 競技会要項に別に定めた場合、締め切り時刻を過ぎた場合でも予選競技開始3時間前までであれば規定の手数料20,000円を添えて「ダイブシート」を提出することができる。（競技会要

項に載せる)

- iv. 提出された「ダイブシート」を競技順に並べ、計算係用に必要部数をコピーする。
- v. 「記録報告用紙」(スタートリスト)に必要な事項を記入する。転記ミスや入力ミスを防ぐため、「ダイブシート」と照らし合わせた後に、必要部数をコピーする。

b 競技直前の作業

- i. 棄権者が出た場合、「ダイブシート」を抜き取り、「記録報告用紙」(スタートリスト)に棄権の表示をする。その場合も、プログラム上の競技順は繰上げない。
- ii. 「記録報告用紙」(スタートリスト)のコピーをレフリー1部、副レフリー1部、通告員1部、種目表示係2部、招集員2部、報道と大会役員に必要な部数を配布する。1部を掲示板に掲示する。
- iii. 設備用具、各種帳票、事務用品、役員の配置を確認する。
- iv. 競技開始直前にジャッジテストを行う。これはジャッジの入力確認だけでなく、システムの接続系統を確認するためでもある。

c 競技中の作業－1 (手計算の場合)

作業順序

- 1 演技種目番号掲示 (種目表示係)
 - 2 選手名、演技種目番号通告 (通告員)
 - 3 開始合図 (レフリー)
 - 4 演技実行 (選手)
 - 5 採点合図 (レフリー)
 - 6 採点提示 (ジャッジ)
 - 7 採点通告 (採点通告係)
 - 8 採点平均計算 (計算係)
 - 9 得点割出し (早見表係)
 - 10 累計計算 (記録係)
 - 11 得点 (通告員)
- 1 番に戻る。

12 得点合計（通告員）

- i. 計算係は、採点通告係が読み上げる各ジャッジの採点をそれぞれ「ダイブシート」のコピーに記入し、最高点から二人と最低点から二人を消去して各自相談することなく合計（評点）を算出する。（5人ジャッジの場合は最高点と最低点各一人を消去し、残った3つの採点の合計を算出する）算出された評点はただちに照合されるが、もし合致しない場合はそれぞれ計算をなおし、合致した後、記録する。

（注）減点がある場合には各採点より減点してから合計を出すこと。（合計してから6点を減点すると、2点より低い採点を含む場合に計算結果が低くなる為）

- ii. 早見表係は「得点計算表」（5人ジャッジ用グリーン）により得点を割り出し、読み上げる。もし合致しない場合はそれぞれ照合をやり直し、合致するまで確認し合う。

シンクロナイズドダイビング競技

・11人ジャッジの場合

演技1・2・同調性それぞれの最高点と最低点を2名削除し残りの平均点を出し、難易度をかけ3倍する。

演技1の採点		演技2の採点		同調性の採点
7.0 6.5 6.5	+	5.5 5.5 7.0	+	8.0 8.0 7.5 8.0 7.0
=35.5 35.5÷5=7.1				

⇒平均点×難易度×3=得点 7.1×2.8×3=59.64

・9人ジャッジの場合

演技の最高点と最低点を1名ならびに、同調性の最高点と最低点1名を削除。
残りの平均点を出し、難易度をかけ3倍にする。

演技1の採点		演技2の採点		同調性の採点
7.0 6.5	+	5.5 5.5	+	8.0 8.0 7.5 8.0 7.0
=35.5 35.5÷5=7.1				

⇒平均点×難易度×3=得点 7.1×2.8×3=59.64

(シンクロナイズドダイビング競技の場合は、3つの採点を足して計算する個人競技の場合と得点のレベルを合わせるために3を掛ける)

- iii. 計算係は早見表係によって読み上げられた得点を記入、得点累計を計算し、互いに確認し合う。
- iv. 記録係は得点合計を確認し順位を出し、競技終了後ただちに結果を通告員に回付する。また、決勝競技の終了時には12位までの順位・氏名・所属・得点等必要事項を「飛込競技成績表」に記入する。
- v. 競技終了後、計算係は計算用紙を、記録係はプログラムを互いに照合し、その後「記録報告用紙」に得点を記入する。

- vi. レフリーに「記録報告用紙」の点検を受け、署名をもらう。
- vii. 予選終了後、決勝用「記録報告用紙」(スタートリスト)に必要な事項を記入し、次の競技の準備をする。
 - (注) 決勝における競技順は予選順位の昇順になる。(予選12位の選手が競技順1番に、1位の選手が最後の競技順になる)競技会により異なる場合があるので必ず競技会要項を確認してから競技順を決めること。
- d. 競技中の作業-2 (リザルトシステムを使用し、手計算でバックアップをする場合)
 - 作業順序
 - 1 演技情報表示出力 (機械操作係)
 - 2 選手名、演技種目番号通告 (通告員)
 - 3 開始合図 (レフリー)
 - 4 演技実行 (選手)
 - 5 採点入力 (ジャッジ)
 - 6 採点、得点 (通告員)
 - 7 得点情報表示出力 (機械操作係)
 - 8 記帳 (計算係、記録係)
 - 1 番に戻る。
 - 9 得点合計 (通告員)
 - i. 機械操作係は通告員の得点通告に演技情報の表示タイミングを合わせる。
 - ii. 通告員はモニターを見ながら全ジャッジが採点入力を完了した時点で採点通告を開始する。
 - iii. 機械操作係は通告員の採点通告に得点情報の表示タイミングを合わせる。
 - iv. 計算係と記録係は通告員の採点、得点通告を聞き、「ダイブシート」のコピー、プログラムに記入する。
 - v. 競技終了後、プリントアウトされた「記録報告用紙」にレフリーの署名をもらう。

- e. 競技中の作業－3（リザルトシステム使用の場合）
作業順序
- 1 演技情報表示出力（機械操作係）
 - 2 演技種目番号、選手名通告（通告員）
 - 3 開始合図（レフリー）
 - 4 演技実行（選手）
 - 5 採点入力（ジャッジ）
 - 6 採点、得点（通告員）
 - 7 得点情報表示出力（機械操作係）
 - 8 採点入力（機械操作係）
1 番に戻る。
 - 9 得点合計（通告員）
- i. 機械操作係は通告員の得点通告に演技情報の表示タイミングを合わせる。
- ii. 通告員はモニターを見ながら全ジャッジが採点入力を完了した時点で採点通告を開始する。
- iii. 機械操作係は通告員の採点通告に得点情報の表示タイミングを合わせる。
- iv. 競技終了後、プリントアウトされた「記録報告用紙」にレフリーの署名をもらう。
- f. 競技会終了後の作業
- i. 「記録報告用紙」の内容および署名を確認し、不備があれば訂正する。
 - ii. 計算係によって記入された「ダイブシート」のコピー1部を主管団体用として保管する。バックアップにもリザルトシステムを使用した場合はプリントアウトに替えること。
 - iii. 「競技会要項」・「飛込競技成績表」・「記録報告用紙」・「競技会プログラム（白紙）」・「団体得点表」を本連盟飛込委員会に送付する。リザルトシステムを使用した場合、アンダーラインは電子ファイルに替えること。
 - iv. ジャッジ席等、特殊な形態で競技会が行われた場合は、そのことを記録報告用紙に記入の

こと。

⑤留意事項

- a. 記録員の任務は、競技開始前の準備から競技会終了後の作業・報告まで長時間にわたるので、注意力が散漫にならないよう気を配り最後まで責任を持って完了させる必要がある。
- b. 公式発表に関しては、単純な誤りといえども各方面に重大な影響をおよぼすので、特に細心の注意をはらい二重、三重のチェックを行う必要がある。

・速報係

実行委員会に速報担当がおかれる場合でも記録員の内部におき、その速報担当者と連携を図る。

①任務

スタートリストと速報のコピー・配布・掲示

②編成

2名以上とする

③配置

コピー機が設置された記録本部もしくは速報室

④手順

a. 競技開始前

記録主任より点検済みの記録報告用紙（スタートリスト）を受取り、必要枚数をコピー。競技開始30分前に配布、掲示する。配布先は基本的に次の通り。

- i. レフリー1部・アシスタントレフリー1部・競技進行主任1部・通告員1部・招集員2部・種目表示板係2部・確認係1部。
- ii. 大会役員・報道関係（部数は実行委員会の指示による）
- iii. 掲示板に掲示（各競技種目の終了ごとに更新すること）

b. 競技終了後

記録主任よりレフリーのサイン済みの記録報告用紙（リザルト）を受取り、必要枚数をコピー。配布先は基本的に次の通り。

- i. 大会役員・報道関係（部数は実行委員会の指示

- による)
- ii. 速報掲示板に掲示。
 - iii. 本連盟提出用（事前に宛先別の封筒を用意しそれぞれに入れる。最終競技終了まで管理すること）
 - iv. ピジョンボックス等が置かれる場合にはそれぞれに投函する。

（注）事前に宛先チェックシートを作成し、配布ごとに確認チェックを行うこと。

・種目表示係

表示装置を含むリザルトシステムを使用する場合には担当を設けなくても良い。しかしバックアップのための要員は必要とする。

①任務

スタートリストに基づき次の競技者の演技種目番号、型（難易度）を表示する。

②編成

2名以上とする。

③位置

種目表示板は競技者・ジャッジ・記録席からよく見えるように掲示する。

④手順

次の演技種目が通告される前に掲示すること。

競技者の演技が終了し、ジャッジの採点が表示されてから次の掲示に移ること。（採点の表示後に、あらためて確認する場合がある）

(6) 通告員

通告員には競技会全般の通告を行う通告員と、ジャッジの提示した採点を読み上げる採点通告係がある。リザルトシステムを使用する場合には採点通告係を設けず、通告員がその任務を行うことが望ましい。

①任務

- a. 競技会の運営および競技進行について、すべての通告を行う。
- b. 大会運営（開・閉会式、表彰式等）に関する通告は実

行委員会の指示により行う。ただし緊急を要する場合はその限りでない。

- c. 通告に関する音響設備が常に正常に機能するように管理する。
- d. 通告原稿を事前に作成し、競技進行主任の確認を受ける。

②編成

- a. 1名。2名以上で編成し、うち1名を通告主任とする。競技種目ごとに交代で担当することが望ましい。
- b. 外国語による通告が必要な場合は、実行委員会の指示に従う。

③配置

記録席の中でデッキサイド全体（演技種目表示板を含む）が見わたせ、かつ、レフリーとも連絡が取りやすい場所に位置する。またリザルトシステムが使用される場合には機械操作係に隣接すること。

④設備

- a. 事前にマイク等の設置場所、電源等を点検・確認し、音響の調整を行う。故障に備えて、予備の通告設備を準備しておくこと。開・閉会式のマイク位置は、実行委員会の指示により決定する。
- b. リザルトシステムを使用する場合にはモニターを設置する。
- c. 他競技と同時進行の場合、事前に音響調整をお互い同時に行っておくこと。

⑤手順

- a. 競技開始前
 - i. 競技者の氏名・所属およびその読み方については、事前に調べ間違いのないように心がけること。また、選手紹介をする場合は、事前に経歴等調べておくこと。
 - ii. 場内の状況に応じて、実行委員会やレフリーと連絡の上、必要事項の通告を行う。
- b. 開会式

- i. 開会式々次第は、事前に実行委員会と打ち合わせをし、原稿を受け取っておく。
 - ii. 開会式で挨拶をする人との連絡および呼称等についても、実行委員会と事前に打ち合わせをしておく。
『まもなく開会式が行われます。選手、競技役員は〇〇にご集合ください』
- c. 競技開始前の通告
- i. プールコンディション
『〇〇時〇〇分現在のプールコンディションを申し上げます。気温（室温）〇〇度、水温〇〇度。』
温度は繰り返して通告する。競技が午前・午後にあたる場合、プールコンディションの通告は午前・午後の2回行うことが望ましい。
 - ii. 競技開始30分前
『競技開始30分前です。当該競技以外の〇〇での練習はおやめください。』
当該競技の行われる板（台）を特定。
 - iii. 競技開始15分前
『招集を行います。〇〇出場選手はスタートリストで種目を確認し、サインをしてください。必ずADカードを提出してください』
主要大会以外では、『〇〇のスタートリストで種目を確認の上サインしてください』や『〇〇で点呼を受けて下さい。』の場合もある。
『競技役員は所定の位置におつきください』レフリー・ジャッジも着席する。ジャッジテストを行っておく。
 - iv. 競技順発表（招集結果をふまえて）
『プログラム〇番、男（女）子、〇〇飛込予選に出場する選手をお知らせします。競技順1番氏名（所属）、2番氏名（所属）……以上〇〇名の選手により予選競技が行われます。なお、競技順〇〇番の氏名（所属）は棄権します。』

- v. レフリー・ジャッジの発表
『男（女）子、〇〇飛込予選のレフリーならびにジャッジをお知らせいたします。レフリー氏名、ジャッジNo. 1 氏名、No. 2 氏名……以上です。』敬称は付さないこと。
- vi. 競技開始5分前
『競技開始5分前です。選手は練習をおやめください。』
- vii. 選手・ジャッジの紹介決勝
『競技に先だちまして男（女）子〇〇飛込決勝に出場する選手の紹介を行います。会場の皆様盛大な拍手でお迎えください。』
『競技順1番 氏名・所属・戦歴。競技順2番 氏名・所属・戦歴。……競技順12番 氏名・所属・戦歴。以上12名により、男（女）子〇〇飛込決勝競技が行われます。』選手の会釈にタイミングを合わせて通告するよう気を付ける。
レフリー・ジャッジ着席した状態から『続きまして、レフリーならびにジャッジを紹介します。レフリー氏名、ジャッジNo. 1 氏名、No. 2 氏名……以上です。』敬称は付さないこと。レフリー・ジャッジの会釈にタイミングを合わせて通告するよう気を付ける。
- viii. 休憩の案内
1 競技における演技数が210以上の場合、途中に休憩をもうける。その場合、競技開始前にその旨を通告する。
『この競技は、制限（自由）選択飛（第〇演技）終了後、10分間の休憩が入ります。』
- d. 競技中の通告
- i. 競技開始
『ただ今より〇〇年度（第〇回）〇〇〇競技大会 〇日目 男（女）子、〇〇飛込予選（決勝）競技を開始いたします。』
アンダーライン部分（プログラムに表記の正式名称）

は当日最初の競技のみ通告する。次の競技からはアンダーラインに変えて『プログラム〇〇番』を通告する。

続いてレフリーの笛、またはブザーの合図により競技が開始される。

ii. 演技種目等の通告

『制限（自由）選択飛第〇、氏名（所属）〇〇〇（演技番号または演技種目名称。競技規則上は演技番号であるが実行委員会の指示に従う）〇（型）、（〇〇m）』
アンダーライン部分は競技順1番の選手のみ通告する。

飛板:〇〇〇（演技番号）、〇（型）

高:〇〇〇（演技番号）、〇（型）、
（〇m（高さ））

iii. 得点発表、次の選手の通告

<各ラウンド>

『得点〇〇.〇〇。氏名、〇〇〇（演技番号）、〇（型）、（〇m（高さ））』

<最終ラウンド>

『得点〇〇.〇〇、得点合計〇〇〇.〇〇。氏名、〇〇〇（演技番号）、〇（型）、（〇m（高さ））』
数字は、0-レイ、1-イチ、4-ヨン、7-ナナ、8-ハチ、と発音する。41.07は、ヨンジュウイチ・テン・レイナナ（× ヨンジュウイッテン・ゼロシチ）

78.40は、ナナジュウハチ・テン・ヨンレイ（× ナナジュウハッテン・ヨンレー）

10点はジッテン、20点はニジッテンと発音する。

（注1）『得点累計』は途中経過に、『得点合計』は最終結果に使用する。得点累計の通告はしない。

（注2）大型電光表示板を使用する場合、決勝競技に限り、各ラウンド終了時にカレントランキングを表示する。

『電光表示板をご覧ください。第○ラウンド終了時点でのランキングが表示されております』

(注3) 演技種目に関するあらゆる情報を表示できる表示板を使用する場合、予選に限り、通告は競技者の氏名だけでも良い。

- iv. 得点の訂正（前選手の得点発表と、次選手の演技通告の間に）『なお、先ほどの競技順○番氏名の得点を○○.○○と申し上げましたが、○
○.○○に訂正いたします。』
- v. ジャッジが2パネルの場合
『ここで、ジャッジが交代致します。』
(注1) 交代終了をレフリーに確認後
ジャッジテストを行なう。通告はしない。
- vi. 休憩の通告
『以上で前半の競技を終了いたします。ここで
○○分間の休憩を取ります。後半の競技は○時○○分
より開始いたします。』
(注) 開始時間は約10分間以上の休憩となる様、
5分間単位で調整する。
- vii. 競技再開の通告（約3分前）
『まもなく男（女）子、○○飛込・後半の競技
を開始いたします。競技役員は所定の位置にお
つきください。』
準備終了後レフリーの許可を得て『競技を再開
いたします。』
- viii. 最終演技終了
『以上をもちまして男（女）子、○○飛込予選
（決勝）競技を終了いたします。結果の発表まで
しばらくお待ちください。』
- ix. 予選終了後（レフリーの許可を受けて）
『ただいま行われました男（女）子、○○飛込競技、
決勝進出者をお知らせします。競技順○番氏名
（所属）、競技順○番氏名（所属）……以上○
○名が決勝に進出いたします。』予選通過者の

発表で、得点合計の通告は不要。

大型電光表示板を使用する場合

『電光表示板をご覧ください。ただいま行われました男(女)子、〇〇飛込 予選ランキングが表示されております。上位〇〇名が決勝(準決勝)に進出いたします。』

『プログラム〇番男(女)子、〇〇飛込、予選(決勝)は、〇〇時〇〇分より開始致します。』

『決勝進出者に連絡します。決勝種目変更のダイブシートの受付は〇〇時〇〇分までと致します。』

x. 決勝終了後

『ただいま行われました男(女)子、〇〇飛込 決勝の結果を発表いたします。第1位氏名(所属)、得点合計〇〇〇.〇〇、第2位……以上』—通常8位まで発表する。(入賞者数と同一)

大型電光表示板を使用する場合

『電光表示板をご覧ください。ただいま行われました男(女)子、〇〇飛込 決勝の結果が表示されております。』

『男(女)子、〇〇飛込競技の表彰は、〇〇時〇〇分より行われます。』—必要に応じて通告する。

e. 表彰式

- i. 『表彰を行います。メダル(ならびに賞状)は役職名氏名より贈られます。』表彰を2名で行う場合は『表彰を行います。メダルは役職名氏名より、副賞は役職名氏名より贈られます。』

表彰者が主催者側の役職にある場合、敬称は付さない。来賓の場合は役職名、氏名の順で敬称は「様」を付す。

- ii. 『男(女)子、〇〇飛込第3位君(さん)〇〇(所属)、第2位……、優勝(本年度選手権獲得者)……表彰を終わります。選手が退場いたします。〇〇で活躍された選手に、今一度盛大な拍手をお送りください。』

- iii. 記念品が贈られる場合
『続きまして優勝者に記念品(トロフィー、楯)が贈られます。』
授与者が異なる場合は、役職名・氏名を通告する。
(注)表彰式の開始時刻、表彰する競技の順番、メダルか賞状か、授与者の氏名、役職名等は前もって確認しておくこと。

f. 閉会式

- iv. 閉会式の通告内容は、運営委員会と打ち合わせの上、原稿を準備する。
- v. 閉会式を行わない場合、また、何日かにわたる競技会の1日の全競技が終了した時は、通告によって1日の終了を告げる。『以上をもちまして○○○(大会名称)大会、○日目の競技日程を終了いたしました。たくさんのご声援、ありがとうございました。』
『明日○日目の第1競技「男(女)○○飛込(予選)」は○○時○○分より開始致します。皆様の応援が選手の力となります。明日もご来場を心よりお待ちしております。』

g. その他

レフリーによる減点の対象になるような演技が行なわれた場合、また、競技に支障のあるような事態が生じた場合は、レフリーの指示により通告を行う。

- i. レフリーの指示による通告(レフリー自身が通告する場合もある)
『ただ今の演技、逆立ちの立ち直し(助走のやり直し)がありましたので、各ジャッジの採点より2点減点いたします。』
0点の場合『Failed Dive(フェイル・ダイブ)』
- ii. 通告員の判断による通告
『記録の訂正がありますので、しばらくお待ちください。』等
- iii. ダイブシート提出に関する通告

- 1) . ダイブシート受け付け開始:正午
- 2) . 締め切り 1時間前:14時00分
(但し、競技中は行わない)
- 3) . 締め切り 30分前:14時30分
(但し、競技中は行わない)
- 4) . 提出締め切り時刻が競技中となる場合の通告

『お知らせいたします。明日行われます競技のダイブシート提出締め切り時刻が、次に行われます〇〇飛板飛込の競技途中となります。提出締め切り時刻に、ご注意ください。よろしくお願いいたします。』

⑥留意事項

- a. 競技の通告では、観客・ジャッジ・選手に演技種目、採点等をはっきり伝えると共に、選手が演技を行いやすいよう通告は一定のリズムをもって続ける。
- b. ダイブシート・通告・種目表示板の種目番号が一致しているかどうかをその都度確認すること。
- c. 競技開始前に、ダイブシートの氏名・所属の読み方等を確認しておくこと。所属併記選手も確認すること。
- d. 競技会の雰囲気をごさぬよう、常に冷静に通告を行うように心がける。特に他の競技と同時進行する場合は実行委員会において事前に十分な打ち合わせをしておくこと。
- e. 競技進行中は緊急かつ、やむを得ない場合を除いて、競技に関係すること以外の通告は原則として行わない。

・採点通告係

リザルトシステムを使用する場合には採点通告係を設けず、通告員がその任務を行うことが望ましい。

①任務

ジャッジが提示した採点を間違いなく伝える。

②編成

1名。2名編成とし、競技ごとに交代で担当することが望ましい。2パネルの場合、通告員が同じタイミングで交代することも可能。

③配置

全ジャッジの提示する採点のはっきり見える位置とする。

④設備

事前にマイクテストを行い、電源等も確認しておくこと。

⑤手順

レフリーの合図で表示されたジャッジの採点を、1審から順次読み上げる。(記録員が聞き取り易いよう、歯切れ良く読む)

採点・1½・4・5½・7・8½・は イチテング(× イッテング)・ヨン・ゴーテング・ナナ・ハチテング(× ハッテング) と読み上げる。明瞭に発音すること。

読み間違えた場合は、その旨を記録席に伝え、必ず最初から読み直す。いずれにしても競技全体の流れをこわさないよう、一定のリズムで通告すること。

(7) 招集員

①任務

- a. 競技開始前、プログラムに従い出場選手の点呼を取り、出場および棄権の有無を確認の上、レフリーならびに記録主任に報告する。
- b. 競技に先立ち、競技者が競技規則第13条2項(BL-7)に違反していないか衣服・持ち物を点検し、違反または疑わしい場合には適切な処置を行う。
- c. 入賞者を表彰式に誘導する。
- d. 棄権者から所定の棄権料を徴収する。
- e. 競技者に事故のあった場合の適切な処置を行う。
- f. 競技者・監督・コーチへの窓口として、連絡事項のある場合には伝達を行う。

②編成

1～2名で編成する。女子の競技がある場合には、女性の招集員も含めておくこと。

③位置

招集所は飛込台に近く、競技者が演技を行う前に待機

するのによい場所とし、招集員は招集所、記録席双方と連絡を取りやすいところに位置する。連絡にはトランシーバーを使用することが望ましい。

④手順

- a. 競技者を所定の時間までに確実に招集所に集合させる。競技者が集合したら点呼を取る。選手紹介式が行われる場合には競技順に整列させる。選手本人のサインにより招集を行う場合には、サインの有無を確認し、サインがない場合には棄権かどうかの確認をする。

ADカードをBOXに提出させる。

- b. 棄権者が出た場合、「棄権届出用紙」を受け取り、すみやかにレフリーならびに記録主任に報告する。
- c. 招集完了の連絡（合図）を記録本部へ行う。
- d. 競技会要項に棄権料の定めがある場合、棄権料の徴収と領収書を発行する。

（注）前記「5. 競技会参加にかかわる罰則3項」の適用と競技会要項を事前に確認しておくこと。

- e. 入賞者を表彰式に誘導し、式典担当者へ引き継ぐ。
（注）誘導途中でのインタビュー対応は、報道担当者から「インタビューの取り決め」について、事前に確認しておくこと。

（8） 報道担当

①任務

報道関係者の窓口となり、競技会の運営、進行に支障を来たさない範囲で、取材へ協力し、便宜を図る。

②編成

1～2名で編成する。

③位置

各役員と報道関係者との連絡が取り易い場所に位置する。

④手順

- a. 競技会に先立ち、報道関係者とおもに次の事項に関して打ち合わせを充分に行ない、徹底させる。取材内容としては次のようなものが考えられる。
 - i. 開会式、閉会式、来賓等への取材。

- ii. 競技中の取材（写真・テレビ・ニュース）。
- iii. 競技終了後の取材（写真・インタビュー）。
- b. 報道関係者の席や必要なスペースについて打ち合わせる。
 - i. テレビ関係はカメラの位置、スタッフ、放送席、場外での車（中継車等）、その他。
 - ii. 放送関係ではアナウサー・解説者等の放送席を設ける。
 - iii. 新聞関係では記者席を設ける。
- c. インタビューについて
インタビューを許可する場合には、場所（ミックスゾーン）を予め決めておき、その場所へ選手を誘導する。場所を決めるにあたっては、選手の誘導や取材のしやすさも考慮する。テレビの場合でもインタビュー席を設け、そこにカメラを設置するよう依頼する。
- d. 立入禁止区域について
 - i. 役員席・ジャッジ席・記録席・選手控室には立ち入り禁止とする。
 - ii. 競技中と式典時はデッキサイドにフォトポジションを設定する。
- e. 競技会場への入退場の方法についても予め決めておく。
- f. 競技結果をできるだけ早く配布するようにして、報道関係者に便宜を図る。

⑤留意事項

- a. 競技の普及のためには、報道関係との協力が重要であることを踏まえ、できる限りの便宜を図るように努めるべきである。
- b. 競技の進行を乱すような行為のないように、協力を要請する。
- c. 報道関係の役員は、競技役員というよりも、運営役員としての性格を持っているので、実行委員会との連絡を密にする必要がある。
- d. 明らかに報道関係者であることが判別できるような腕章、ゼッケン等を準備し、着用を依頼する。

- e. 写真撮影に関する規制は実行委員会と十分な検討を行い、実施をする。

12. 抗議

競技中に発生した事項に関して、競技者またはチームの責任者は演技の実行直後に口頭による申し立てをすることができる。もし口頭による申し立てが受け入れられなかった場合、チームの責任者は競技終了後30分以内に、文書による抗議を抗議料50,000円も添えてレフリーに提出することができる。ただし、レフリーによって承認された採点そのものについては抗議することができない。

- (1) 競技開始前に判明した事項に関しては、競技開始の合図の前に提出しなければならない。
- (2) 全ての抗議はレフリーによって裁定される。抗議を拒絶する場合、レフリーは拒絶の理由を表明しなければならない。
- (3) レフリーに拒絶された場合、チーム責任者はその拒絶を本連盟または加盟団体から任命された大会総務に上告することができる。大会総務による裁定は最終決定である。

13. 施設・用具

競技会に使用する施設、設備、機器類は本連盟によって公認または承認されたものでなければならない。(プール公認規則 飛込競技・設備要項 参照)

(1) 施設

- ①飛板：3m…2～3枚、1m…2～3枚
- ②高飛込台：5m、7.5m、10mの各1台
- ③リザルトシステム：ジャッジ入力端末、移動型表示装置を備え、モニターはオペレーション用の他に、レフリーと通告員用を備える。ソフトにはジャッジ考課が搭載されていること。
- ④放送機器：マイク(3～4本)、ミュージックソース。競技が同時進行する場合は、競泳用と

別系統のスピーカーが必要。

- ⑤什器：長机（10台…記録席4台、来賓・報道6台）、机（レフリー1台）、椅子（60脚…ジャッジ用8～10脚、記録席11脚、コーチ・来賓等約40脚）、長椅子（選手用10～15本）、ホワイトボード（1～2枚）、リザルト用書類整理箱（選手・報道）、ダイブシート投函箱、屋外プールの場合には仮設テント（大会役員・報道関係・招集所・選手・コーチ席用。記録席は空調設備を備えたプレハブが望ましい）
- ⑥機 具：ジャッジ台11台、採点板11セット、種目表示板2台。

(2) 用具

- ①競技用具：レフリー用笛またはブザー、スプラッシュカード12セット、事務用品（鉛筆、消しゴム、鉛筆削り、定規、クリップ、ホッチキス、ハサミ、セロテープ、バインダー、封筒・大小、電卓、等）、得点計算表（早見表）、領収書、
- ②規定集：競技規則、競技役員手引、公認プール規則
- ③表彰用具：表彰台、メダル、カップまたは楯、表彰状、表彰盆、音楽ソース（入場用、表彰用）
- ④事務機器：パソコン、コピー機、ファックス
- ⑤通信機器：トランシーバー5台（競技が同時進行する場合は、競泳用と異なる周波数を要する）
- ⑥接遇用品：来賓・役員用（飲み物、おしぼり、靴カバー、等）
- ⑦医薬品：応急用外用薬、内服薬、アイスボックス。

14. 競技会参加の監督、コーチ、競技者に対し、特に要望または指導する事柄

競技役員はこの手引に精通するとともに、次の事項について、監

督・コーチ・競技者に対して充分徹底するよう伝達・指導し競技会運営の円滑を期することが大切である。

- ① 監督・コーチは、競技会要綱および監督者会議の指示や、要望事項を競技者に伝達すること。
- ② 招集所には指定された時間までに必ず集合すること。集合しない場合、失格とされる場合もある。
- ③ 一時的に競技能力の向上をはかる目的で、薬品または嗜好品等を用いないこと。
- ④ 作為により自己の競技能力を低下させないこと。
- ⑤ 競技者はダイブシートの記載事項にすべての責任を負う。しかし幼少の競技者にあつては、監督コーチがよく確認をすること。
- ⑥ 競技によって休憩をもうける場合があること。
- ⑦ 演技が終了したら、競技進行の妨げにならないよう、すみやかに水から上ること。
- ⑧ 入賞者は表彰式進行のために協力し招集員、表彰係の指示に従うこと。
- ⑨ スタンドでは選手席で観戦すること。その際、見苦しい服装や態度を取らないこと。
- ⑩ コーチングは所定の場所で行うこと。
- ⑪ すべての競技者・監督・コーチはアリーナ内で本連盟の定める「競泳競技会において着用、または携行することができる水泳用品、用具の商業ロゴ等についての取り扱い規定」に違反する商標・商標名を付けた衣服・持ち物を着用したり、携行したりしてはならない。

15. 書式

DIVE SHEET (個人競技)

競技会名

水泳競技大会

公益財団法人 日本水泳連盟

ふりがな	ふりがな	提出日時	男子	1m飛板飛込	予選	競
氏名	所属	月 日 時 分	女子	3m飛板飛込 高飛込	準決勝 決勝	技 順

Round	Dive Number	Position A,B,C,D	Height	DD	Judge s' Awards							Average (Total)	Penalty	Score		
					1	2	3	4	5	6	7					
1																
2																
3																
4																
5																
6																

競技者署名

Total:

コーチ署名

記録員署名

Place:

DIVE SHEET (個人競技)

公益財団法人 日本水泳連盟

水泳競技大会

競技会名

ふりがな	ふりがな	提出日時	区分	男子 女子	1m飛板飛込 3m飛板飛込 高飛込	予選 準決勝 決勝	競 技 順
氏名	所属	提出日時	月 日 時 分				

Round	Dive Number	Position A,B,C,D	Height	DD	Judge s' Awards							Average (Total)	Penalty	Score		
					1	2	3	4	5	6	7					
1																
2																
3																
4																
5																
6																
7																
8																
9																
10																

制限選択飛

競技者署名 _____ DD合計 _____ Total: _____

コーチ署名 _____ 記録員署名 _____ Place: _____

DIVE SHEET (シンクロロナイズド競技_9人ジャッジ用)

公益財団法人 日本水泳連盟

水泳競技大会

競技会名

I	ふりがな	ふりがな	提出日時	区分	男子	3m飛板飛込	予選	競技順
	氏名	所属	月 日	時 分	女子	高飛込	決勝	
II	ふりがな	ふりがな			Mix			
	氏名	所属						

Round	Dive Number	Position A.B.C.D	DD	Judges/Awards										Average (Total)	Penalty	Score	
				Execution					Synchronization								
				E1	E2	E3	E4	S1	S2	S3	S4	S5					
1			2.0														▪
2			2.0														▪
3																	▪
4																	▪
5																	▪
6																	▪

競技者 I 署名 _____ コーチ署名 _____ Total: _____

競技者 II 署名 _____ 記録員署名 _____ Place: _____

棄権届出用紙

提出日 月 日

プログラム 頁

競技会 年度 競技大会

競技種目 男・女 個人・Syn 1m 3m 高飛込 予選 準決勝 決勝

競技順 番 選手名： 所属：

記載責任者： 所属： 役職：

棄権事由

棄権料： 金 円 領収書発行： 棄権料無し：
 受付者： 回覧確認 記録主任： 審判長：

難易度計算用紙

競技会：

年度

飛込競技会

申込演技	番号		型	高さ	難易度	
	方向	回転数	型	高さ	ひねり	要素値
A:宙返り	/		/		/	
B:空中姿勢						
C:ひねり						
D:踏切						
D:踏切(逆立ち)						
E:入水						
					合計	

計算者：

レフリー：

16. 参考資料

公認競技役員資格規定

第1条（目的）

水泳競技会（競泳・飛込・水球・アーティスティックスイミング・オープンウォータースイミング（以下OWS）・日本泳法）の運営が、公正かつ公平になされる為に必要な知識、技能を習得させて、合わせて水泳の普及発展に寄与・貢献することを目的とする。

第2条（公認競技役員の種類）

本連盟が公認する競技役員資格は、各競技種別に共通する公認競技役員と各競技種別における審判員とによって構成される。

① 公認競技役員

18歳以上で、本連盟または、加盟団体が開催する公認競技役員取得講習会を受講し、適性を認められた者。

② 公認審判員

本連盟または、加盟団体が開催する公認審判員取得講習会を受講し、適性を認められた者。

③ 審判員制定（競泳・飛込・水球・AS・OWS・日本泳法）の資格は、この公認競技役員の資格保有を必須とする。

第3条（公認競技役員の任務）

公認競技役員は、本連盟または、加盟団体の委嘱に基づき競技運営に参加し、誠実にその任にあたるものとする。

委嘱は、原則として競技会ごとに行なわれるものとする。

第4条（公認競技役員の登録）

公認競技役員の資格を取得した者は、本連盟制定の登録申請書に所定事項を記入し、登録料と共に加盟団体を通じて本連盟に登録しなければならない。登録者に対し登録書証を交付する。

第5条（登録の更新）

登録年より4年ごとに登録の更新をしなければならない。登録後、登録内容に変更（転居、改姓等）が生じた場合は加盟団体を通じ本連盟に速やかに文書で連絡するこ

と。

第6条 (研修の義務)

登録をしている公認競技役員は、本連盟または加盟団体が実施する研修会（実施細目）に4年に1回以上参加しなければならない。

第7条 (資格の取消)

- ① 正当な理由なく委嘱された任務を怠りあるいは、競技役員の名誉を傷つける行為があった場合。
- ② 正当な理由なく4年に1回の研修会への参加を怠った場合。

第8条 (付 則)

この規定実施の為の細則は別に定める。

第9条 (施 行)

この規定は、1995年（平成7年）4月1日より実施する。

2010年（平成22年）4月1日 改訂

2018年（平成30年）4月1日 改訂

飛込競技公認審判員資格規定

第1条 目的

この規定は財団法人日本水泳連盟（以下、「本連盟」という）公認競技役員資格規定第2条4項「審判員制度」に基づき、飛込競技公認審判員（以下、「公認審判員」という）の資格に関する基準を定め、判定が公正かつ公平になされるために必要とする知識、技能を習得させ、合わせて飛込競技を奨励し、普及発展に寄与することを目的とする。

第2条 種別

本連盟が公認する審判員資格の種別は次の通りとする。

1. 飛込競技A級審判員（以下、「A級審判員」という）
2. 飛込競技B級審判員（以下、「B級審判員」という）
3. 飛込競技C級審判員（以下、「C級審判員」という）

第3条 種別による競技会参加制限

公式・公認競技会の審判員は、下記に従い編成しなければならない。

1. 公認審判員の資格を取得していない者は、本連盟または加盟団体が主催する「公式競技会」、本連盟または加盟団体が公認する「公認競技会」での審判はできない。
2. C級審判員は、日本選手権水泳競技大会、翼ジャパンダイビングカップ、国際大会代表選手選考会、日本高等学校選手権水泳競技大会、日本学生選手権水泳競技大会、国民スポーツ大会を除く公式競技会ならびに公認競技会での審判ができる。
3. B級審判員は、日本選手権水泳競技大会、翼ジャパンダイビングカップ、国際大会代表選手選考会を除く、公式競技会ならびに公認競技会での審判ができる。
4. A級審判員は、すべての公式競技会ならびに公認競技会での審判ができる。
5. 本連盟が主催する競技会における審判員の年齢は70歳までとする。（誕生日を迎える年度の3月31日まで）
6. 地域大会における審判員の年齢は75歳までとする。（誕生日を迎える年度の3月31日まで）
7. 特例は別に定める。

第4条 資格審査

公認審判員の資格審査は、下記の通りとする。

1. 資格審査は公認審判員として必要な、競技に関する専門知識、実務経験の有無、および実務内容について行う。
2. 審判実務内容が著しく劣る者は、審査の結果下位の資格に変更することがある。
3. 本連盟の飛込委員会で予備資格審査を行い、本連盟資格審査委員会（以下、審査会という）に推薦する。
4. 審査会の審査により適格と認められた者に公認審判員資格証を交付する。
5. 前項に関わらず、C級審判員の認定については、本連盟飛込委員会が審査により適格と認められた者に公認審判員資格証を交付する。

第5条 申請条件

公認審判員の資格および申請条件は、次の各号に掲げる者とする。

1. C級審判員の資格申請ができる者は次の各号のすべてに該当し、加盟団体の推薦を得た者とする。
 - ①満18歳以上の者。
 - ②本連盟の公認競技役員登録者。
 - ③本連盟主催または公認審判研修会を1年以内に受講した者。
 - ④下記項目のいずれかに該当する者。
 - イ、競技者として公式競技会に出場経験を有する者。
 - ロ、競技役員として実務経験を有する者。
 - ハ、競技者の指導経験を有する者。
 - ⑤本連盟主催の大会または各加盟団体主催の大会のうち、2大会において模擬審判（個人競技、シンクロナイズド競技の両方）をし、筆記試験を受け、飛込委員会の審査によりの確と認められた者。
 - ⑥筆記試験にて85%以上の成績を収めた者
2. B級審判員に昇格申請ができる者は次の各号のすべてに該当し、加盟団体の推薦を得た者とする。
 - ①本連盟の公認競技役員登録者。
 - ②中央研修会を2年以内に受講した者。
 - ③下記項目のいずれかに該当する者。

イ、C級審判員登録後4年以上経過し、その間に公式競技会で6回以上（全国大会で3回以上を含む）の審判実務経験を有し、全国大会での審判実務や模擬審判における実務内容と、専門知識テストの結果が、飛込委員会の審査により適格と認められた者。前年度まで2年間の考課表の成績が88%以上であること。

ロ、競技者として本連盟主催の全国大会上位入賞の実績を有する者で、C級審判員として1年以上経過し、その間に全国大会で1回以上の審判実務を有し、審判実務や模擬審判における実務内容と、専門知識テストの結果が、飛込委員会の審査で適格と認められた者。前年度の考課表の成績が88%以上であること。ただし、現役選手を退いてから10年以内であること。

④毎年行われる公認飛込審判員テスト（オンラインテスト）で85%の成績であること。

3. A級審判員に昇格申請ができる者は次の各号のすべてに該当し、加盟団体の推薦を得た者とする。

①本連盟の公認競技役員登録者。

②中央研修会を2年以内に受講した者。

③公式競技会における審判実務や模擬審判における実務内容が、飛込委員会の審査で適格と認められた者。

④下記項目のいずれかに該当する者。

イ、B級審判員登録後4年以上経過し、その間に公式競技会で6回以上（全国大会で4回以上を含む）の審判実務経験を有する者。なおかつ全国大会において模擬審判における実務内容が、飛込委員会の審査によりの確と認められた者。前年度まで2年間の考課表の成績が90%以上であること。

ロ、競技者として本連盟主催の全国大会上位入賞の実績を有する者で、B級審判員として2年以上の審判実務経験を有し、全国大会での審判実務や模擬審判における実務内容と専門知識テストが、飛込委員会の審査で適格と認められた者。前年度まで2年間の考課表の成績が90%以上であること。

ハ、競技者として国際大会代表選手の実績を有する者

で、B級審判員として1年以上の審判実務実績を有し、全国大会での審判実務や模擬審判における実務内容が、飛込委員会の審査で適格と認められた者。前年度の考課表の成績が90%以上であること。

4. 国際審判員の資格取得を新規に申請できる者は次の各号のすべてに該当し、加盟団体の推薦を得た者とする。
 - ①A級審判員として1年以上の審判実績を有する者。
 - ②World Aquatics主催のオンラインテストを受験し合格した者。
 - ③英語でのコミュニケーション力に抵抗がない者。
 - ④前年度までの考課表の成績が90%以上であること。
 - ⑤審判部・競技部で協議し飛込委員会で承認された者。

第6条 登録

1. 公認審判員資格を認定された者は加盟団体を經由し、本連盟に公認審判員として登録することができる。
2. 公認審判員資格の有効期限は、申請の翌年度4月1日から4年間とする。

第7条 更新登録

1. 更新登録ができる者は、次の各号のすべてに該当しなければならない。
 - ①登録期間中2年間に1回以上の審判実務経験を有する者。
 - ②中央研修会を2年間に1回以上受講している者。
 - ③オンラインテストを年に一度受けている者
 - ④特例は別に定める。(細則)
2. 特別の理由により更新登録を1年間以上できなかつた場合、資格審査委員会は、下位の資格に変更することがある。

第8条 申請方法

1. 該当者が申請をする場合、申請書に登録料を添えて加盟団体に提出する。加盟団体は押印の上、申請書A・B2枚を本連盟飛込委員会審判部宛に送付する。
2. 現有公認審判員資格の有効期限内に昇格申請を行う場合、登録料の納付は不要である。この場合昇格後の公認審判員資格の有効期限はそれまで所有していた公認審判員資格の有効期限となる。

3. 資格証を再発行する場合、申請書に再発行手数料を添えて加盟団体に提出する。加盟団体は押印の上、申請書の本連盟飛込委員会審判部宛に送付する。

第9条 審判研修会

1. 公認審判員として必要な飛込競技の専門知識、および審判技術向上のため、中央研修会を2年に一度実施する。（西暦の奇数年）
2. A・B級・C級審判員は中央研修会を受講し、専門知識の確認を受けなければならない。
3. 国際審判員でその年の国際大会に参加しレポートを提出した者は、研修会の受講が免除される。ただしオンラインテストは受験のこと。
4. 日本選手権大会または翼ジャパンダイビングカップで審判業務に従事した審判員は、翌年度の審判員研修会の受講を免除する。ただし、オンラインテストは受験のこと。免除された審判員は、当該大会で得た知見を所属地域における審判活動および現場運営に活かすものとする。
5. 特例は別に定める。
6. 審判員研修会の受講料については特例に定める。（細則）

第10条 資格の取り消し

下記の事由に該当する場合は、本連盟資格審査委員会の審議を経て、資格を取り消すことがある。

1. 本連盟または加盟団体より審判員の委嘱を受けたにもかかわらず、特別な事由なく1年間以上審判を行わなかった場合、資格を取消すことがある。
2. 更新登録を特別な事由なく1年間以上怠った場合、その資格は消滅することがある。
3. 審判研修会を特別な事由なく受講しなかった場合、資格を取消すことがある。

第11条 付則

本規則施行のための細則は別に定める。

第12条 改廃

本規程の改廃は、理事会の決議により行う。

- 附則
- 1 本規程は2023（令和5）年4月1日より制定・施行され、同日以降開催される競技会に適用される。
 - 2 本規程は、2024（令和6）年6月8日より一部改定施行する。
 - 3 本規程は、2025（令和7）年6月14日より一部改定施行する。
 - 4 本規定は、2026（令和8）年4月1日より一部改訂施行する。

〈 飛込競技公認審判員資格規定 施行細則 〉

飛込委員会

第1条 全国大会と上位入賞

規定第5条2項、3項にいう、本連盟主催の全国大会ならびに上位入賞とは、次の別表1の記載内容

別表1.

イ、全国大会	ロ、上位入賞
日本選手権水泳競技大会	8位以内(1mは3位)
日本室内選手権水泳競技大会	8位以内(1mは3位)
翼ジャパンカップ	8位以内
日本学生選手権水泳競技大会	3位以内
日本高等学校水泳競技大会	3位以内
全国中学校水泳競技大会	3位以内
国民体育大会	3位以内
全国JOCジュニアオリンピックカップ	3位以内(13才以下を除く)

第2条 国際大会

規定第5条3項にいう国際大会とは、次の別表2の記載内容をいう。

別表2.

オリンピック競技大会
World Aquatics Championships
World Aquatics Diving World Cup
World Aquatics Junior Diving Championships
FISUワールドユニバーシティゲームズ
アジア競技大会
アジア選手権
東アジアユース競技大会

東アジア競技大会

第3条 特例

1. 規定第3条7項にいう特例とは、次の競技会をいう。

本連盟飛込委員会が推薦、あるいは承認したB級審判員は、日本選手権水泳競技大会、翼ジャパンダイビングカップ、国際大会代表選手選考会において審判することができる。

2. 規定第7条1項4にいう特例とは次に定めるものとする。

実務経験のない者は、模擬審判で1回とみなす。模擬審判は日本選手権水泳競技大会、翼ジャパンダイビングカップ、国際大会代表選手選考会の各競技会等で実施する。参加希望者は、当該競技会要項に記載されている、参加申込締切日までに、本連盟飛込委員会審判部宛申し込むこと。

3. 規定第9条5項にいう特例とは次に定めるものとする。

① 本連盟主催または公認の審判研修会をやむを得ぬ事由で受講できなかった者は、その事由書を添えて、本連盟飛込委員会審判部が定めたテーマに基づいたレポートを提出することで、受講とみなす。(ただし、2回連続のレポート提出は、認めない。)

② 71歳以上のA級審判員は中央研修会の受講を免除する。ただし、オンラインテストは受講すること。

第4条 第8条にいう登録料は 4,000円 とする。

飛込競技規則
2026

第1刷 2026年4月1日 発行

(公財) 日本水泳連盟 競技委員会

〒160-0013 新宿区霞ヶ丘町4番2号Japan Sport Olympic Square

電話 03-6812-9061 (代)

公式ホームページ <https://aquatics.or.jp/news/>